

EPSON

androidtv



取扱説明書

Home Projector

EH-LS800W

EH-LS800B

マニュアル中の表示の意味 5**プロジェクターを使用する前に 8****プロジェクターの各部名称と働き 9**

プロジェクターの各部名称 - 前面	9
プロジェクターの各部名称 - 上面/側面	10
プロジェクターの各部名称 - 底面	11
プロジェクターの各部名称 - インターフェイス	12
プロジェクターの各部名称 - プロジェクターリモコン	13

プロジェクターを準備する 16**プロジェクターの設置 17**

プロジェクターの設置・取り付け	19
設置に関するご注意	20

セーフティーワイヤーを取り付ける 22

天吊り金具ELPMB22をお使いのとき	22
天吊り金具ELPMB30をお使いのとき	23

プロジェクターを接続する 25

ビデオ機器を接続する	25
USB機器を接続する	25
外部オーディオ機器を接続する	26
メディアストリーミング端末を接続する	27
ARC対応AVアンプを接続する	28
ゲーム機を接続する	28
ヘッドフォンを接続する	29

サイドカバーを取り付ける 30**リモコンに電池を取り付ける 31**

リモコンを操作する	32
-----------------	----

Android TVを設定する 33

Android TVホーム画面	34
-----------------------	----

プロジェクターの基本機能を使用する 35**プロジェクターの電源を入れる 36****プロジェクターの電源を切る 38****設置モードを選択する 39**

メニューから設置モードを変更する	39
------------------------	----

映像の高さを調整する 40**ピントを調整する 41****壁面投写時の映像の色味を調整する 42****映像のゆがみを補正する 43****環境に応じて光源の明るさを設定する 45****手動で光源の明るさを設定する 46****コンテンツの明るさに応じてコントラストを調整する 47****映像を切り替える 49****映像のアスペクト比を設定する 50**

映像のアスペクト比を切り替える	50
アスペクトモードの種類	51

カラーモードを設定する 52

カラーモードを変更する	52
カラーモードの種類	53

映像の画質を調整する 54

映像を最適化する（詳細設定）	54
映像の解像感を調整する	55
フレーム補間を設定する	56

音量ボタンで音量を調整する 57**サウンドを調整する（サウンドモード） 58**

サウンドモードの種類	59
サウンドの詳細設定	59

音声を一時的にオフにする（音声ミュート）	62
映像を一時的に非表示にする（ブランク）	63
プロジェクターの便利な機能	64
映像のサイズと位置を調整する（フレキシブルスクリーン）	65
映像を左右反転する（フレキシブルスクリーン）	66
映像のふちをぼかす（フレキシブルスクリーン）	67
プロジェクターをBluetoothスピーカーとして使用する	68
Bluetooth仕様	69
Chromecastとして使用する	70
HDMI CEC機能	71
HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する	71
セキュリティーケーブルを取り付ける	73
ファームウェアを更新する	74
プロジェクターを初期化する	75
メニューの操作	76
プロジェクター設定を操作する	77
画質メニュー	78
サウンドメニュー	80
設置メニュー	83
設定メニュー	84
情報表示メニュー	86
Bluetoothスピーカーモードメニュー	87

プロジェクターをメンテナンスする	88
プロジェクターのメンテナンス	89
投写窓を清掃する	90
センサーを清掃する	91
本機を清掃する	92
エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする	93
エアフィルターを清掃する	93
エアフィルターを交換する	94
吸気口を清掃する	96
困ったときに	97
トラブルの対処方法	98
インジケーターの見方	99
電源に関するトラブル	101
電源が入らない	101
予期せず電源が切れる	101
映像に関するトラブル	102
映像が表示されない	102
映像が湾曲している、長方形にならない	103
映像が左右反転している	103
映像が小さい	103
映像がぼやける	103
映像の一部が表示されない	104
映像にノイズが入る、乱れる	104
映像の明るさや色合いが違う	105
音声に関するトラブル	106
音が出ない、小さい	106
Bluetoothスピーカーモードでのトラブル	106
リモコン操作に関するトラブル	108

HDMI CECに関するトラブル	109
Wi-Fiネットワークに関するトラブル	110
Android TVに関するトラブル	111

付録 112

オプション・消耗品一覧	113
設置用金具	113
外付けオプション	113
スクリーン	113
消耗品	113
スクリーンサイズと投写距離	114
対応解像度	116
本機仕様	117
接続端子	117
外形寸法図	118
安全規格対応シンボルマークと説明	119
レーザー製品を安全にお使いいただくために	121
レーザー警告ラベル	121
用語解説	123
一般のご注意	124
使用限定について	124
本機を日本国外へ持ち出す場合の注意	124
瞬低（瞬時電圧低下）基準について	124
JIS C 61000-3-2適合品	124
商標について	124
ご注意	125
著作権について	125

マニュアル中の表示の意味

安全に関する表示

本製品および取扱説明書には、製品を安全にお使いいただくために絵表示が使われています。
人体への危害や財産への損害を防ぐために、次の絵表示で表記された説明は、内容をよくお読みいただいた上で、説明に従ってお取り扱いください。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する表示

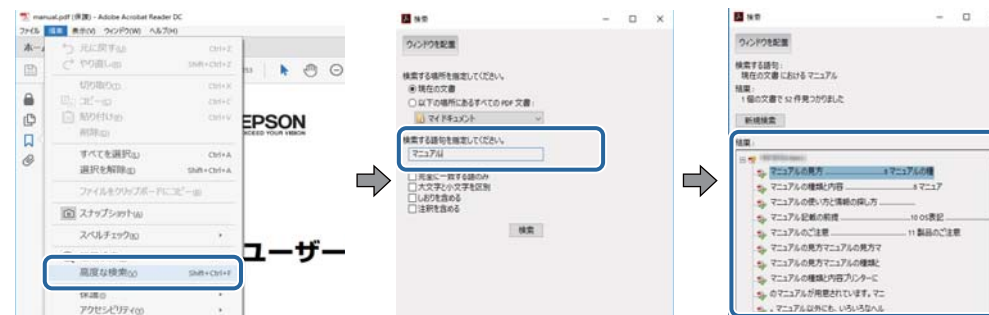
注意	注意して取り扱わないと、本製品の故障や損傷の原因となるおそれがある内容を記載しています。
	知っておくと便利な関連情報を記載しています。
	リモコンまたは本機のボタン名称を示しています。 例：  ボタン
[メニュー名/設定名]	プロジェクターのメニューや設定の名称を示しています。 例： [画質・映像] メニューを選択する  [画質・映像] > [色設定]
	関連事項を記載しているページを示しています。
	プロジェクターのメニューの階層を示しています。

マニュアルの使い方と情報の探し方

PDFマニュアルでは、探したい情報のキーワードから該当箇所を検索したり、しおりから直接ジャンプしたりすることができます。また、必要なページだけ印刷することもできます。ここでは、PDFマニュアルをコンピュータのAdobe Reader Xで開いた場合の使い方を説明します。

キーワードで検索する

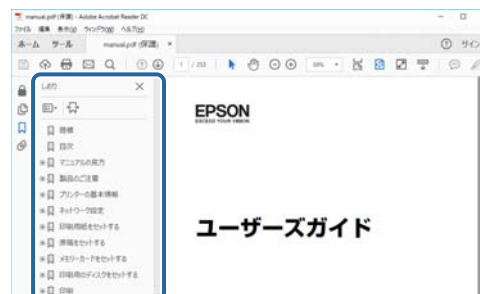
〔編集〕メニューの〔高度な検索〕をクリックします。検索ボックスに探したい情報のキーワード（語句）を入力して、〔検索〕をクリックします。キーワードの該当箇所が一覧で表示されます。表示された文字列をクリックすると、該当ページにジャンプします。



しおりから直接ジャンプする

タイトルをクリックするとそのページにジャンプします。+または>をクリックすると下の階層のタイトルが表示されます。ジャンプ前のページに戻りたいときは、キーボードで以下の操作をします。

- Windows：〔Alt〕キーを押したまま←キーを押します。
- Mac OS：commandキーを押したまま ←キーを押します。



必要なページだけ印刷する

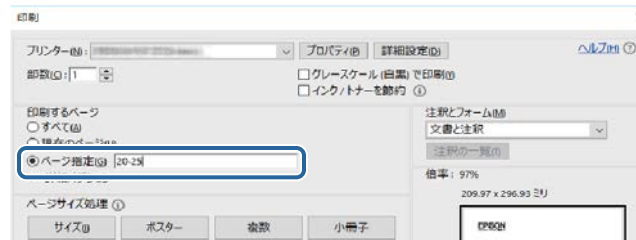
紙で読みたいページだけを抜き出して印刷できます。[ファイル] メニューの [印刷] をクリックして、[印刷するページ] の [ページ指定] で印刷したいページを指定します。

- 連続したページの指定は、開始ページと終了ページの間にハイフンを入れます。

例：20-25

- 連続していない複数ページの指定は、ページをカンマで区切ります。

例：5,10,15



プロジェクターを使用する前に

本機の各部名称について説明します。

▶ 関連項目

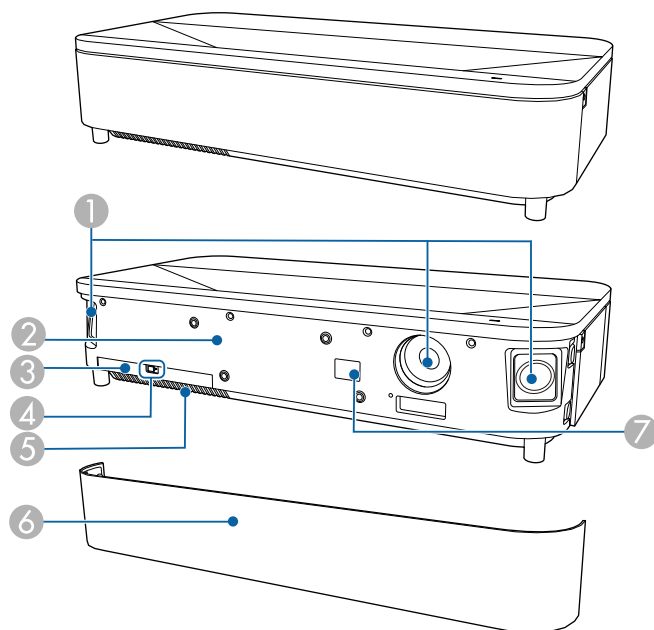
- 「プロジェクターの各部名称と働き」 [p.9](#)

本機の各部名称とその働きについて説明します。

▶ 関連項目

- ・「プロジェクターの各部名称 - 前面」 [p.9](#)
- ・「プロジェクターの各部名称 - 上面/側面」 [p.10](#)
- ・「プロジェクターの各部名称 - 底面」 [p.11](#)
- ・「プロジェクターの各部名称 - インターフェイス」 [p.12](#)
- ・「プロジェクターの各部名称 - プロジェクターリモコン」 [p.13](#)

プロジェクターの各部名称 - 前面



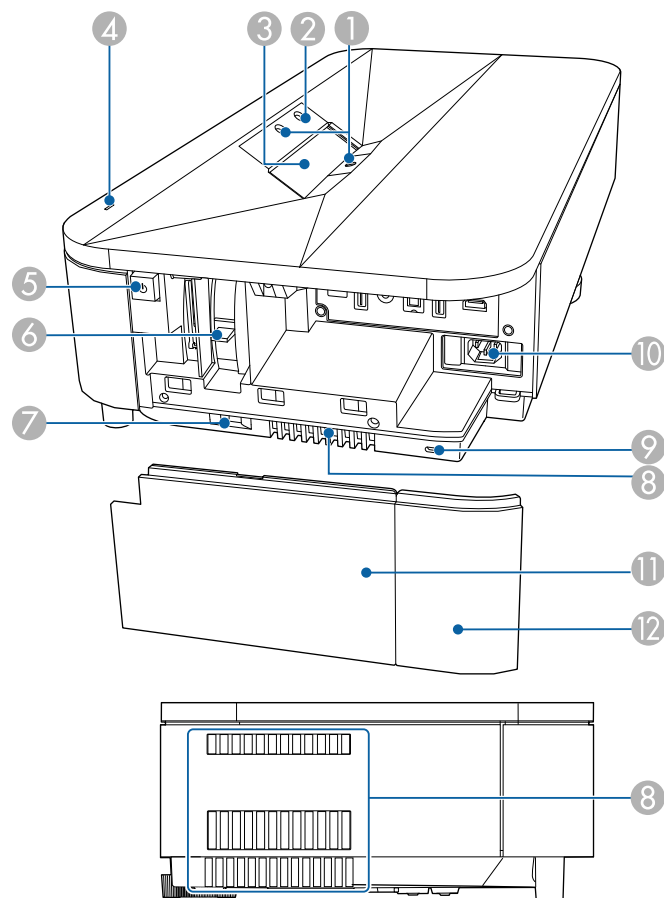
名称	働き
① スピーカー	音声を出力します。

名称	働き
② 照度センサー	周囲の明るさを感知して、画面の明るさを自動で切り替えます。
③ エアフィルターカバー	エアフィルターの清掃・交換時に開閉します。
④ エアフィルターカバー操作つまみ	エアフィルターカバーを取り外すときに横に動かします。
⑤ 吸気口（エアフィルター）	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。
⑥ フロントカバー	エアフィルターの清掃・交換時に開閉します。
⑦ リモコン受光部	リモコン信号を受信します。

▶ 関連項目

- ・「リモコンを操作する」 [p.32](#)
- ・「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 [p.93](#)
- ・「環境に応じて光源の明るさを設定する」 [p.45](#)

プロジェクターの各部名称 - 上面/側面



名称	働き
① 障害物検知センサー	投写エリア付近の障害物を検知して、安全のため光源の明るさを落とします。

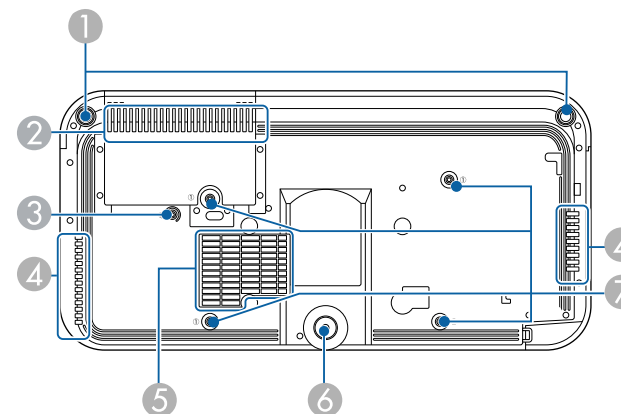
名称	働き
② モーションセンサー	投写窓付近の動作を検知して、安全のため光源の明るさを落とします。  - センサーの検知範囲は、使用環境の温度によって変わることがあります。 - ガラスなどの透明な素材越しでは、センサーが動作しないことがあります。
③ 投写窓	内部の投写レンズから映像を投写します。  警告 - 投写中は投写窓をのぞかないでください。 - 投写窓にものを置いたり、手を近づけたりしないでください。投写光が集束するため高温になり、やけどや変形、火災の原因になります。
④ ステータスインジケータ	本機の状態を表示します。
⑤ 電源ボタン	本機の電源をオン/オフします。
⑥ フォーカスレバー	映像のピントを調整します。
⑦ サイドカバー操作つまみ	サイドカバーを取り外すときに横に動かします。

名称	働き
⑧ 排気口	本機内部を冷却した空気の吐き出し口です。 ⚠ 注意 投写中は手や顔を排気口に近づけたり、熱による悪影響を受けるものを排気口の近くに置かないでください。排気口から温風が出るため、やけどや変形、事故の原因となります。
⑨ セキュリティーロット	Kensington社製のマイクロサーバーセキュリティシステムに対応したセキュリティスロットです。
⑩ 電源端子	電源コードを接続します。
⑪ サイドカバーA	接続端子部とフォーカスレバーを操作するときはこのカバーを開けます。
⑫ サイドカバーB	サイドカバーは、サイドカバーAとサイドカバーBの2つに分解できます。メディアストリーミング端末に接続するときなど、必要に応じてサイドカバーAのみを本機に取り付けて使うことができます。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターの電源を入れる」 [p.36](#)
- 「センサーを清掃する」 [p.91](#)
- 「投写窓を清掃する」 [p.90](#)
- 「ピントを調整する」 [p.41](#)
- 「インジケータの見方」 [p.99](#)
- 「セキュリティケーブルを取り付ける」 [p.73](#)
- 「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 [p.93](#)
- 「サイドカバーを取り付ける」 [p.30](#)

プロジェクターの各部名称 - 底面



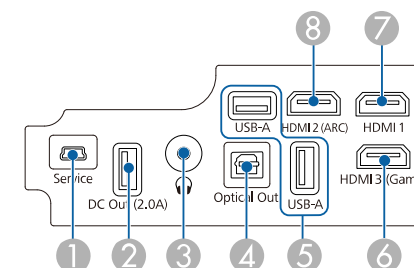
名称	働き
① フロントフット	机上設置時に、フットを回して映像のゆがみを補正します。 ⚠ 注意 本機を天吊りする場合は、すべてのフットを取り外してください。
② 吸気口（エアフィルター）	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。
③ ワイヤークランプ固定部	オプションの天吊り金具を取り付けるときは、落下防止のため、カラビナをここに取り付けてセーフティワイヤーを通します。 本体に②の印がついています。

名称	働き
④ 排気口	本機内部を冷却した空気の吐き出し口です。 ⚠ 注意 投写中は手や顔を排気口に近づけたり、熱による悪影響を受けるものを排気口の近くに置かないでください。排気口から温風が出るため、やけどや変形、事故の原因となります。
⑤ 吸気口	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。
⑥ リアフット	机上設置時に、フットを伸ばして映像の高さを調整します。 ⚠ 注意 本機を天吊りする場合は、すべてのフットを取り外してください。
⑦ 天吊り金具固定部 (4箇所)	本機を天井から吊り下げるときは、オプションの天吊り金具をここに取り付けます。 本体に ① の印がついています。

▶ 関連項目

- 「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 [p.93](#)
- 「セーフティーワイヤーを取り付ける」 [p.22](#)

プロジェクターの各部名称 - インターフェイス



名称	働き
① Service端子	サービス技術者が使用する端子です。通常は使用しません。
② DC Out (2.0A)端子	オプションまたは市販のメディアストリーミング端末に電力を供給します。 USBデータ転送には使用できません。
③ Audio Out端子	投写中の入力ソースの音声をヘッドフォンに出力します。
④ Optical Out端子	光デジタルケーブルを接続して、外部のオーディオ機器に現在の入力ソースの音声を出力します。
⑤ USB-A端子	ウェブカメラ、マイク、外付けハードディスク、USBメモリー、マイクの受信機やゲーム用コントローラーの受信機など、市販のUSB機器を接続します。 市販のRJ45アダプターを接続すると、有線LANに接続できます。 ⓘ すべてのUSB機器の動作を保証するものではありません。

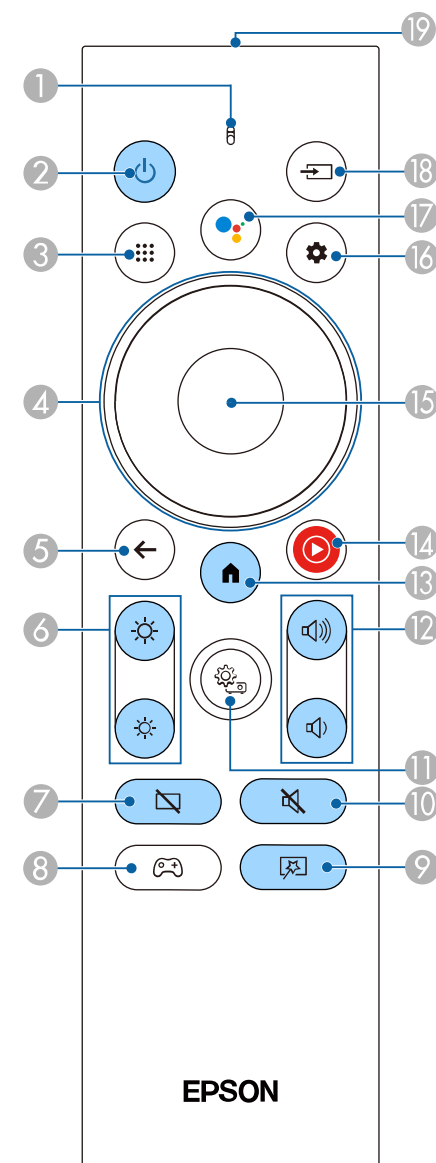
名称	働き
⑥ HDMI3 (Game)端子	ゲーム機器を接続します。速い操作が要求されるゲームを楽しむのに適しています。 HDCP 2.3に準拠しています。
⑦ HDMI1端子	HDMIに対応したビデオ機器やコンピューターの信号を入力します。 HDCP 2.3に準拠しています。
⑧ HDMI2 (ARC)端子	HDMIに対応したビデオ機器やコンピューターの信号を入力します。 HDCP 2.3とHDMI ARCに準拠しています。

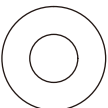
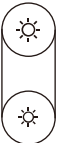
▶ 関連項目

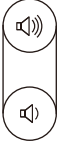
- ・「ビデオ機器を接続する」 [p.25](#)
- ・「USB機器を接続する」 [p.25](#)
- ・「外部オーディオ機器を接続する」 [p.26](#)
- ・「メディアストリーミング端末を接続する」 [p.27](#)
- ・「ARC対応AVアンプを接続する」 [p.28](#)
- ・「ゲーム機を接続する」 [p.28](#)
- ・「ヘッドフォンを接続する」 [p.29](#)

プロジェクターの各部名称 - プロジェクターリモコン

入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、下図で青色に塗りつぶされたリモコンボタンのみを使用できます。



名称	働き
① インジケーター/マイク	リモコン信号が出力されているときに点灯します。 Googleアシスタントボタンを押したときに、ここで音声を感知します。
② 電源ボタン 	本機の電源をオン/オフします。 電源を切るときまたは再起動するときに、このボタンを押します。 キャプチャー機能はサポートされていません。
③ アプリ一覧ボタン* 	アプリの一覧を表示します。
④ 上下左右選択ボタン* 	メニューの表示中に押すと、メニュー項目を選択します。
⑤ 戻るボタン* 	実行中の機能を終了します。 メニューの表示中に押すと、前のメニュー階層に戻ります。
⑥ 明るさ調整ボタン 	投写映像の明るさを調整します。
⑦ ブランクボタン 	映像を一時的に非表示にして、音声のみを再生します。

名称	働き
⑧ ゲームモードボタン* 	HDMI3 (Game)入力ソースの映像を表示します。 速い操作が要求されるゲームを楽しむのに適しています。
⑨ フレキシブルスクリーンメニューボタン 	[フレキシブルスクリーン]メニューを表示します。 映像のサイズと位置を調整したり、映像を左右反転したり、映像のふちをぼかしたりすることができます。
⑩ 音声ミュートボタン 	音声を一時的にオフにします。
⑪ プロジェクター設定ボタン* 	プロジェクターのメニューを表示します。投写画面に表示されるメニューを使って、本機の各種動作を設定します。
⑫ 音量調整ボタン 	スピーカーやヘッドフォンの音量を調整します。
⑬ ホームボタン 	Android TV™のホーム画面を表示します。
⑭ YouTube Musicボタン* 	YouTube Musicアプリを表示します。

名称	働き
⑮ 【決定】 ボタン *	メニューの表示中に押すと、選択項目を決定して、次の階層に進みます。
⑯ Android TV設定ボタン * 	Android TVメニュー画面を表示します。
⑰ Googleアシスタントボタン * 	リモコンのGoogleアシスタントボタンを押すことで、500,000以上の映画やコンテンツに素早くアクセスできます。おすすめのコンテンツを楽しんだり、スマートホーム機器を操作したりできます。  Googleアシスタントは、国や言語により使用できない場合があります。
⑱ 入力切替ボタン * 	HDMI1とHDMI2入力ソースの利用可能な一覧を表示します。
⑲ リモコン発光部	リモコン信号を出力します。

- 「映像を一時的に非表示にする（blank）」 [p.63](#)
- 「音声を一時的にオフにする（音声ミュート）」 [p.62](#)
- 「プロジェクター設定を操作する」 [p.77](#)
- 「リモコンを操作する」 [p.32](#)
- 「ゲーム機を接続する」 [p.28](#)

*入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、これらのボタンは使用できません。

▶ 関連項目

- 「映像を切り替える」 [p.49](#)
- 「手動で光源の明るさを設定する」 [p.46](#)
- 「映像のサイズと位置を調整する（フレキシブルスクリーン）」 [p.65](#)
- 「映像を左右反転する（フレキシブルスクリーン）」 [p.66](#)
- 「映像のふちをぼかす（フレキシブルスクリーン）」 [p.67](#)
- 「Android TVホーム画面」 [p.34](#)
- 「カラーモードを設定する」 [p.52](#)
- 「プロジェクターの電源を入れる」 [p.36](#)
- 「音量ボタンで音量を調整する」 [p.57](#)

プロジェクターを準備する

プロジェクターの準備方法を説明します。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターの設置」 [p.17](#)
- 「セーフティーワイヤーを取り付ける」 [p.22](#)
- 「プロジェクターを接続する」 [p.25](#)
- 「サイドカバーを取り付ける」 [p.30](#)
- 「リモコンに電池を取り付ける」 [p.31](#)
- 「Android TVを設定する」 [p.33](#)

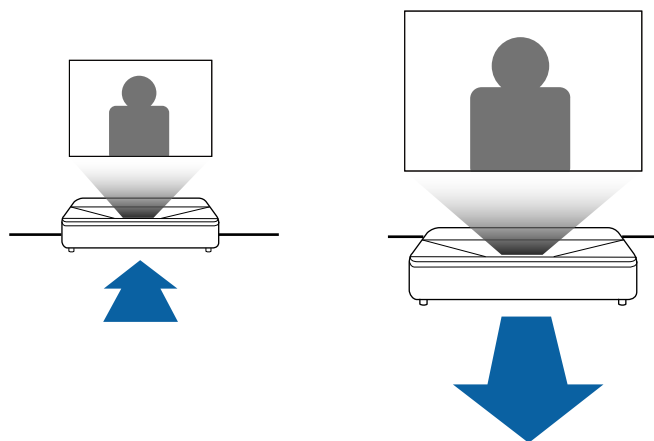
平らな場所にプロジェクターを置いて映像を投写します。

位置を固定して使用する場合は、天井にプロジェクターを取り付けることもできます。天井からプロジェクターを吊り下げるときは、オプションの天吊り金具が必要です。

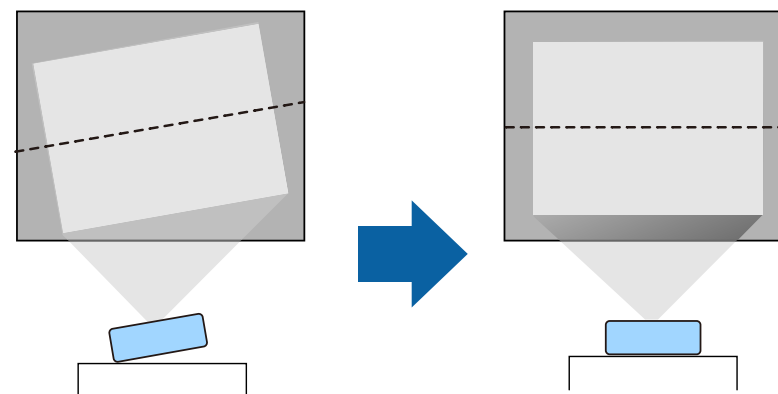
本機はさまざまな角度で映像を投写できます。垂直、水平方向ともに設置角度に制限はありません。

プロジェクターの設置位置を決めるときは、以下の点に注意してください。

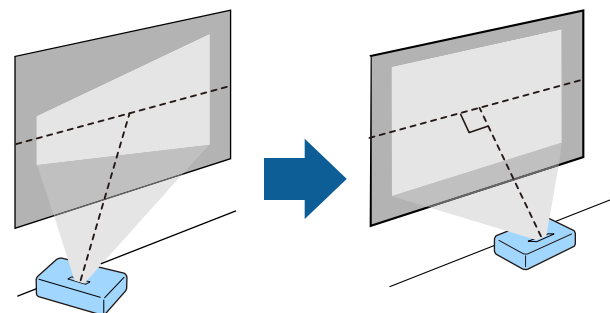
- 投写映像のサイズを調整するには、プロジェクターを前後に動かします。

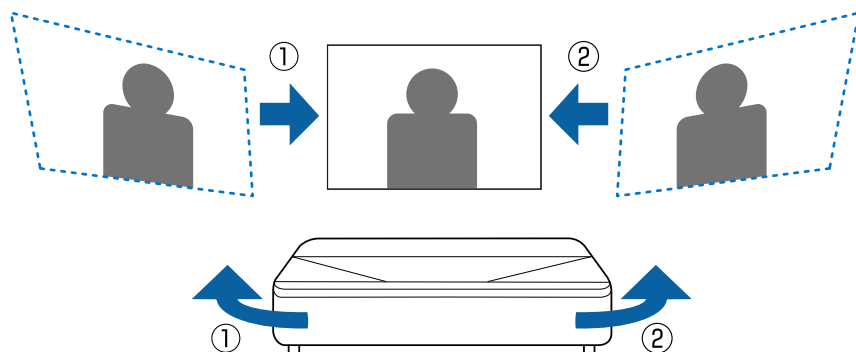


- プロジェクターは水平で安定した場所に置くか、本製品に対応した金具を使用して取り付けます。

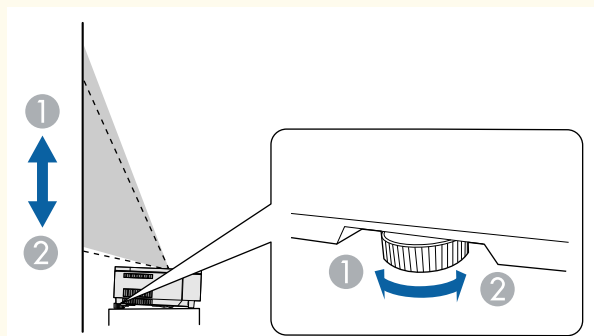
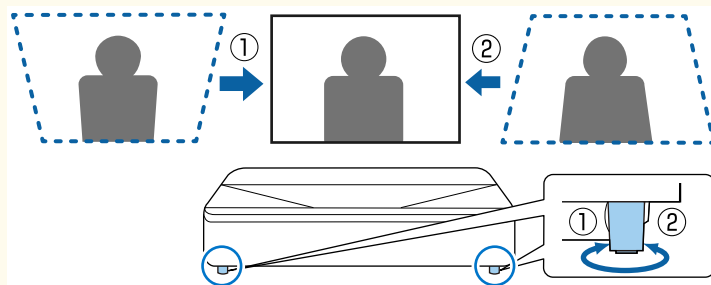


- 通気のためにプロジェクターの周囲に十分なスペースを確保します。通気の妨げになるものをプロジェクター上面や周囲に置かないでください。
- 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。





投写映像のゆがみや高さは、フロントフットとリアフットを使って調整できます。



⚠ 警告

- 天井からプロジェクターを吊り下げるときは、天吊り金具の取り付けが必要となります。プロジェクターを正しく設置しないと、落下により破損やけがの原因となることがあります。
- 天井への取り付け工事は、特別な技術が必要となります。プロジェクターを正しく設置しないと、落下により破損やけがの原因となることがあります。
- プロジェクターの天吊り固定部に、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などを使用しないでください。プロジェクターにそれらの溶剤が付着すると、プロジェクターのケースが割れ、天吊り金具からプロジェクターが落下するおそれがあります。
- 天吊り金具とプロジェクターの取り付け不備は、プロジェクターの落下事故につながるおそれがあります。本機に対応したエプソン指定の金具を使用し、プロジェクターの天吊り固定部すべてに確実に固定してください。また、同梱またはオプションのセーフティーワイヤーを使ってプロジェクターと金具を固定してください。
- 湿気やホコリの多い場所や、油煙や湯気が当たる場所（調理場所、ご家庭のキッチン、加湿器の近くなど）にプロジェクターを設置しないでください。火災・感電の原因となることがあります。また、油によりプロジェクターの外装ケースが劣化し、天吊り設置したプロジェクターが落下するおそれがあります。

外装ケースの劣化・破損によりプロジェクターの落下が想定される環境例

- 油煙が多い場所（工場、調理場所、ご家庭のキッチンなど）
- 溶剤、薬品が揮発している空間（工場、実験室など）
- 油、洗剤、薬品などが付着する場所（工場、調理場所、ご家庭のキッチンなど）
- アロマオイルを頻繁に焚く場所（リラクゼーションルームなど）
- イベント演出などのスモーク（油成分以外も含む）や、泡が多い場所（イベント演出装置の周辺など）
- 加湿器の近く

⚠ 警告

- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- ホコリや塵の多い場所で使用・保管はしないでください。投写映像の品質が劣化したり、エアフィルターにホコリが詰まって、故障や火災につながる可能性があります。
- 不安定な場所や荷重範囲を超える場所には設置しないでください。落下や転倒によりけがや事故の原因となります。
- 高い場所に設置するときは、地震などの非常時の安全確保と事故防止のため、ワイヤーなどを用いて落下防止策を施してください。正しく設置しないと、落下によりけがや事故の原因となります。
- 塩害が発生する場所や、温泉の硫黄ガスなどの腐食性ガスが発生する場所には設置しないでください。腐食による落下の原因となることがあります。また、本機の故障の原因となることがあります。

注意

- 本機を標高1,500 m以上の場所を使用するときは、「高地モード」を「オン」にして、本機の内部温度が適切に調節されるようにしてください。
- 湿気やホコリの多い場所、たばこなどの煙が当たる場所への設置は、できるだけ避けてください。

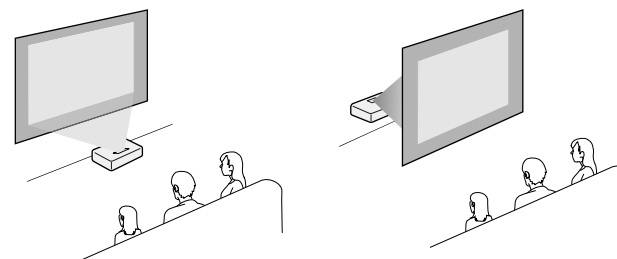
▶ 関連項目

- 「プロジェクターの設置・取り付け」 [p.19](#)
- 「設置に関するご注意」 [p.20](#)
- 「スクリーンサイズと投写距離」 [p.114](#)
- 「設置メニュー」 [p.83](#)
- 「設定メニュー」 [p.84](#)
- 「映像のサイズと位置を調整する（フレキシブルスクリーン）」 [p.65](#)
- 「ピントを調整する」 [p.41](#)

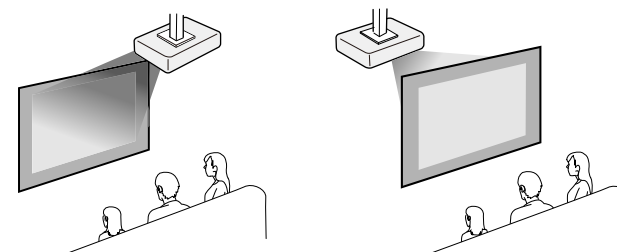
プロジェクターの設置・取り付け

本機は以下の方法で設置・取り付けできます。

フロント/リア



フロント・上下反転/リア・上下反転



- 「設置モード」の初期設定は「フロント」です。

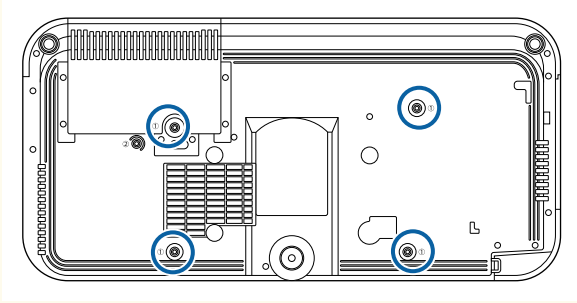
▶ 関連項目

- 「設置モードを選択する」 [p.39](#)

設置に関するご注意

注意

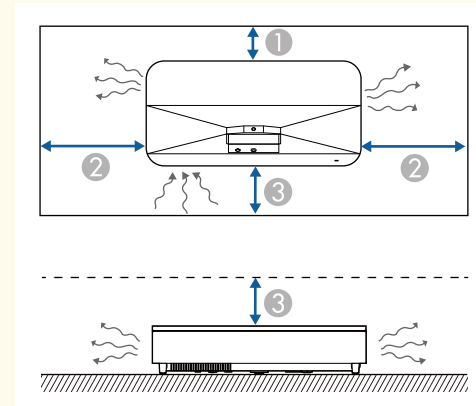
- 本機を傾けて設置する場合は、専門業者にご依頼のうえ、本機に対応した専用の設置用金具をお使いください。
- 正しく設置しないと、落下により破損やけがの原因となることがあります。
- M4ネジ（最大深さ9 mm）を使って、本機底面の天吊り金具固定部（4箇所）と設置用金具を固定してください。



設置スペース

注意

吸気口・排気口をふさがないように、本機の周辺には以下のスペースを確保してください。

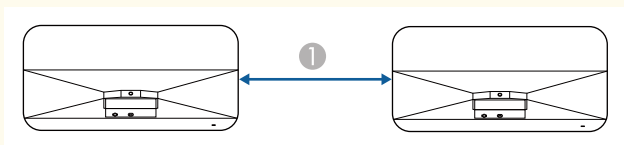


- ① 2.3 cm
- ② 20 cm
- ③ 10 cm

設置スペース（複数台並べて設置するとき）

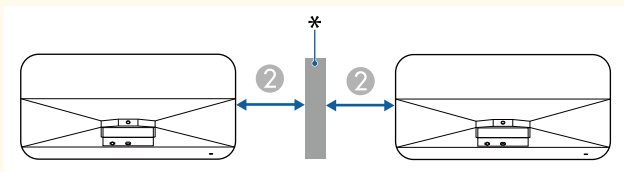
注意

- 排気口から出た熱が他のプロジェクターの吸気口に入り込まないようにしてください。



① 110 cm

- 仕切りを置くときは、以下のスペースを確保してください。



② 20 cm

* 仕切り

本機を天吊り設置するときは、落下防止用のセーフティーワイヤーを取り付けます。

⚠ 警告

セーフティーワイヤーは、必ずエプソン純正の天吊り金具に同梱されているものをご使用ください。セーフティーワイヤーは、別途セーフティーワイヤーセット ELPWR01としてもお買い求めいただけます。

▶ 関連項目

- 「天吊り金具ELPMB22をお使いのとき」 [p.22](#)
- 「天吊り金具ELPMB30をお使いのとき」 [p.23](#)

天吊り金具ELPMB22をお使いのとき

以下の手順でセーフティーワイヤーを取り付けます。

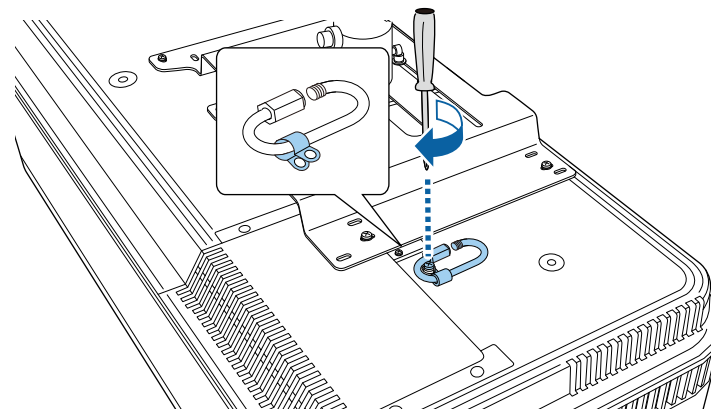
事前に、フロントフットとリアフットを本機から取り外す必要があります。また、天吊り金具（ELPMB22）が確実に本機に取り付けられていること、また、セーフティーワイヤーセットの以下の同梱品がそろっていることを確認してください。

- セーフティーワイヤー × 1
- カラビナ × 2（ELPMB22で使用するカラビナは1つです。）
- ワイヤークランプ × 1
- 取付用ネジ（M4 × 10 mm） × 1

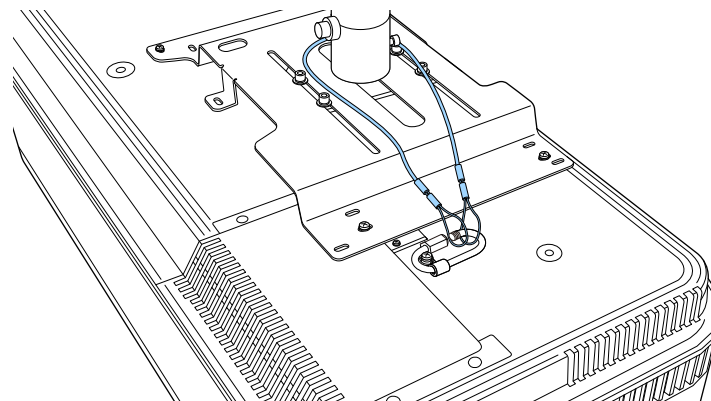


天吊り金具ELPMB22について詳しくは、『天吊り金具 ELPMB22/ELPMB23 取扱説明書』をご覧ください。

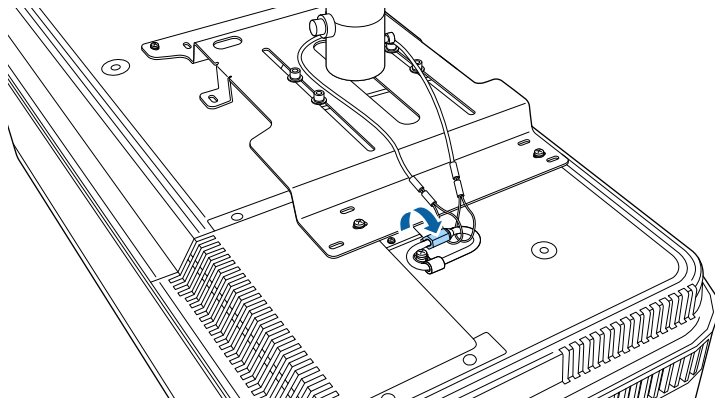
- 1 カラビナにワイヤークランプを取り付け、ワイヤークランプをプロジェクターのワイヤークランプ固定部 (2) に取付用ネジで固定します。



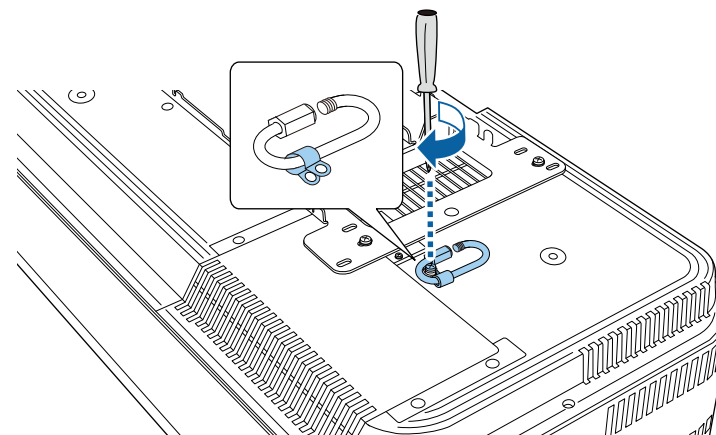
- 2 セーフティーワイヤーを天吊り金具の支柱に引っ掛けて、両端をプロジェクター側のカラビナに取り付けます。



3 カラビナを締めます。



1 カラビナにワイヤークランプを取り付け、ワイヤークランプをプロジェクターのワイヤークランプ固定部 (2) に取付用ネジで固定します。



天吊り金具ELPMB30をお使いのとき

以下の手順でセーフティーワイヤーを取り付けます。

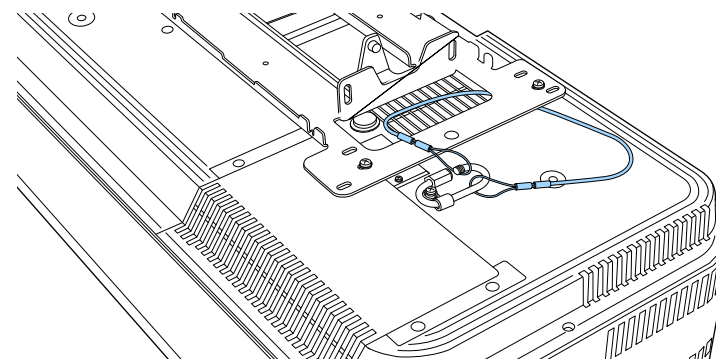
事前に、フロントフットとリアフットを本機から取り外す必要があります。また、天吊り金具 (ELPMB30) が確実に本機に取り付けられていること、また、セーフティーワイヤーセットの以下の同梱品がそろっていることを確認してください。

- セーフティーワイヤー × 1
- カラビナ × 2 (ELPMB30で使用するカラビナは1つです。)
- ワイヤークランプ × 1
- 取付用ネジ (M4 × 10 mm) × 1

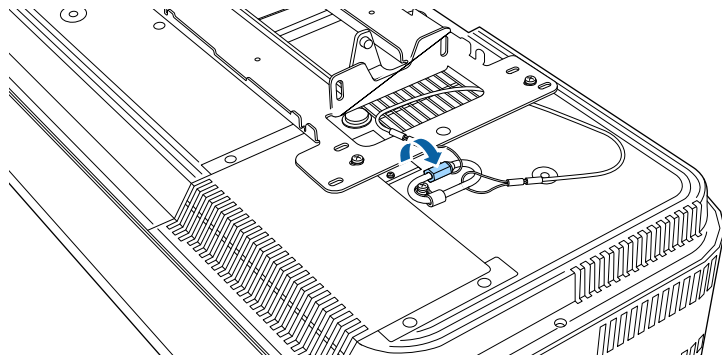


天吊り金具ELPMB30について詳しくは、『ELPMB30取扱説明書』をご覧ください。

2 セーフティーワイヤーを天吊り金具に通して、両端をカラビナに取り付けます。



3 カラビナを締めます。



プロジェクターと映像機器の接続方法を説明します。

注意

- 接続する前に、使用するケーブルのコネクターの形状と向きを確認してください。形状が合わないコネク터를無理に端子に押し込まないでください。お使いの機器、プロジェクターの破損や故障の原因となります。
- 接続機器とケーブルの形状によっては、サイドカバーを取り付けられないことがあります。その場合、無理にカバーを取り付けしないでください。お使いの機器、プロジェクターの破損や故障の原因となります。

▶ 関連項目

- 「ビデオ機器を接続する」 [p.25](#)
- 「USB機器を接続する」 [p.25](#)
- 「外部オーディオ機器を接続する」 [p.26](#)
- 「メディアストリーミング端末を接続する」 [p.27](#)
- 「ARC対応AVアンプを接続する」 [p.28](#)
- 「ゲーム機を接続する」 [p.28](#)
- 「ヘッドフォンを接続する」 [p.29](#)

ビデオ機器を接続する

HDMI端子を搭載したビデオ機器があれば、HDMIケーブルでプロジェクターとビデオ機器を接続して映像と音声を出力できます。

注意

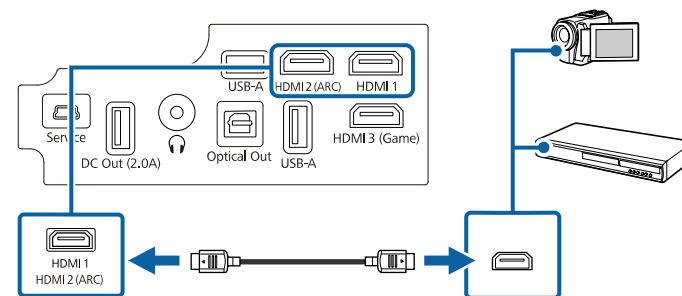
あらかじめビデオ機器の電源を切ってください。ビデオ機器の電源が入った状態で接続すると、故障の原因となります。



- 接続する機器の端子が特有の形状をしているときは、その機器に同梱またはオプションのケーブルで接続してください。
- ビデオ機器によっては、数種類の信号を出力できます。出力できる信号の種類は、お使いのビデオ機器に同梱の取扱説明書で確認してください。
- 4K 60Hz 4:4:4などの18 Gbps伝送帯域の信号を投写するときは、プレミアムハイスピードのHDMIケーブルをお使いください。適合していないケーブルを使用すると、正しく表示できないことがあります。

1 ビデオ機器のHDMI出力端子にHDMIケーブルを接続します。

2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のHDMI端子に接続します。



USB機器を接続する

以下のUSB機器をプロジェクターに接続すると、コンピューターやビデオ機器を接続しなくても映像を投写したり、音声を再生したりできます。

- マイク
- USBメモリー
- デジタルカメラ

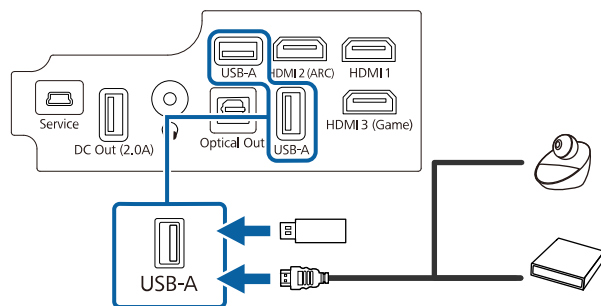
• USBハードドライブ



- USB-A端子はすべてのUSB機器の動作を保証するものではありません。
- USB機器からコンテンツを投写するにはアプリが必要です。必要に応じてGoogle Playからアプリをダウンロードしてください。
- USBハードドライブは以下の要件を満たしている必要があります。
 - USBマストレージクラスに準拠していること（対応していないUSBマストレージクラスの機器もあります）
 - フォーマット形式がFAT16/32であること
 - USBハードドライブに付属のACアダプターから電源供給ができること（USBケーブルから電源供給を受けるハードドライブは推奨しません）
 - ハードドライブのパーティションは1つのみであること

1 USB機器に電源アダプターが付属しているときは、USB機器をコンセントに接続します。

2 本機のUSB-A端子に、以下のようにUSB機器を接続します。



注意

- USB機器に付属のUSBケーブル、または指定されたUSBケーブルを使用してください。
- USBケーブルが長すぎると機器が正しく動作しないことがあります。USBケーブルの長さは3m以下のものを推奨します。
- USBハブを使うと機器が正しく動作しないことがあります。事前に動作確認を行うことを推奨します。

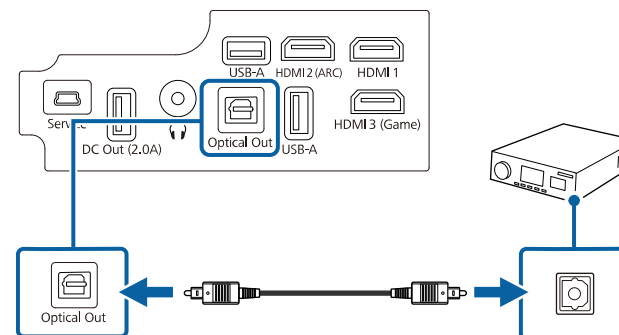
3 USBケーブルのもう一方のコネクターをUSB機器に接続します。

外部オーディオ機器を接続する

お使いのアンプやスピーカーに光デジタル音声入力端子があるときは、市販の光デジタルケーブルを使ってこれらの機器に音声を出力できます。

1 オーディオ機器の光デジタル音声入力端子に、光デジタルケーブルを接続します。

2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のOptical Out端子に接続します。





音声の設定を変更するには、[サウンド] メニューの [音声出力] を設定します。

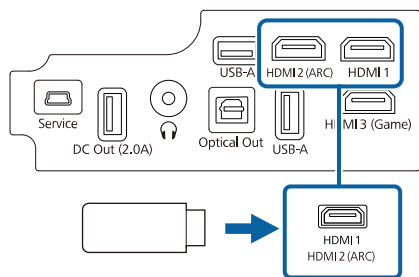
▶ 関連項目

- 「サウンドの詳細設定」 [p.59](#)

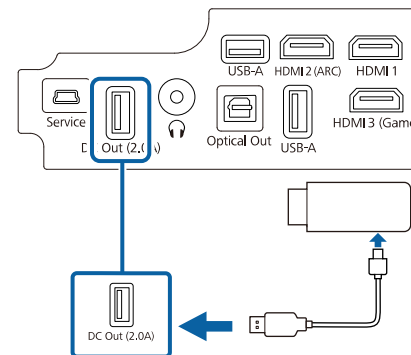
メディアストリーミング端末を接続する

メディアストリーミング端末を本機のHDMI端子に接続します。USB給電ケーブルを接続すると、プロジェクターからメディアストリーミング端末に電力を供給できます。

- 1 メディアストリーミング端末をHDMI端子に接続します。



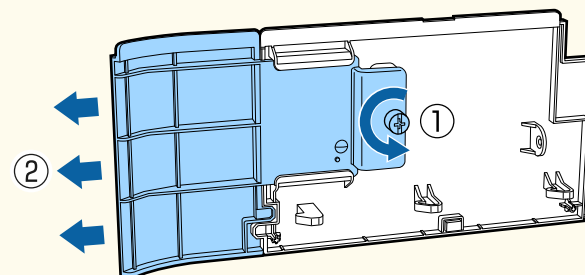
- 2 USB給電ケーブルを本機のDC Out端子に接続します。



- 3 給電ケーブルのもう一方のコネクターをメディアストリーミング端末に接続します。



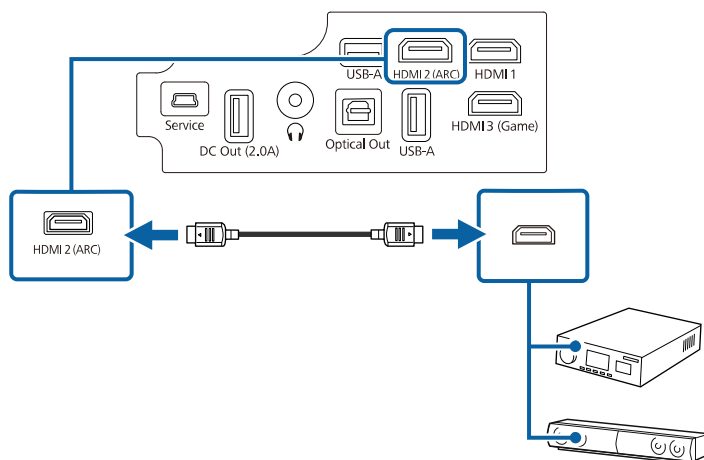
サイドカバーは、サイドカバーAとサイドカバーBの2つに分解できます。メディアストリーミング端末に接続するときなど、必要に応じてサイドカバーAのみを本機に取り付けて使うことができます。



ARC対応AVアンプを接続する

HDMI端子を搭載したAVアンプやサウンドバーなどの外部スピーカーを使用しているときは、イーサネット対応のHDMIケーブルを使って、これらの機器に音声を出力できます。

- 1 アンプのHDMI出力端子（ARC対応）にHDMIケーブルを接続します。
- 2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のHDMI2 (ARC)端子に接続します。



- HDMI2 (ARC)端子から音声を出力するときは、[HDMI2 ARC] を [オン] に、[HDMI3 (Game)以外] を [ARC/Optical (PCM)] または [ARC/Optical (Auto)] に設定します。
 - ☞ [設定] > [HDMI CEC] > [CECコントロール] > [HDMI2 ARC]
 - ☞ [サウンド] > [音声出力] > [HDMI3 (Game)以外]
- HDMI2 (ARC)端子の音声を高品質で出力するときは、[サウンド] メニューの [音声出力] を [ARC/Optical (Auto)] に設定します。
- HDMI2 (ARC)端子から音声を出力するときは、入力ソースによって音声の出力形式が異なります。
 - 入力ソースが [HDMI] のとき：音声は最大5.1ch（AC-3、またはDTS）で出力されます。
 - Android TVのコンテンツを再生するとき：音声は 2ch（PCM）で出力されます。
- ARCの対応音声形式について詳しくは、『Supplemental A/V Support Specification』をご覧ください。
- 入力ソースが HDMI3 (Game)のときは、HDMI2 (ARC)端子から音声を出力することはできません。

▶ 関連項目

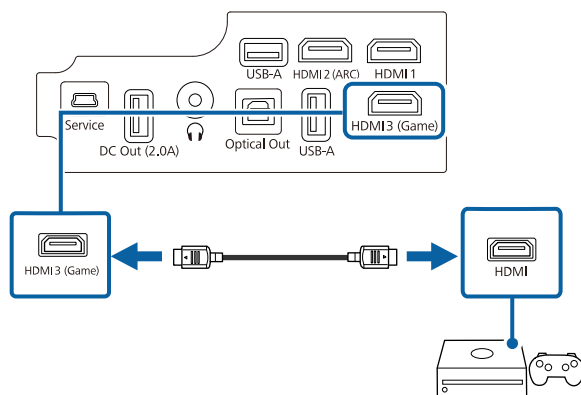
- 「サウンドの詳細設定」 [p.59](#)

ゲーム機を接続する

HDMI端子を搭載したゲーム機を使用しているときは、HDMIケーブルでプロジェクターのHDMI3 (Game)端子とゲーム機を接続して映像と音声を出力できます。HDMI3 (Game)端子は、速い操作が要求されるゲームを楽しむのに適しています。

- 1 ゲーム機のHDMI出力端子にHDMIケーブルを接続します。

- 2** ケーブルのもう一方のコネクターを本機のHDMI3 (Game)端子に接続します。



- 外部オーディオ機器で音声を再生するときは、光デジタルケーブルを本機に接続します。[サウンド]メニューの[音声出力]を設定してください。
- 入力ソースがHDMI3 (Game)のときは、HDMI2 (ARC)端子から音声を出力することはできません。

▶ 関連項目

- 「外部オーディオ機器を接続する」 [p.26](#)

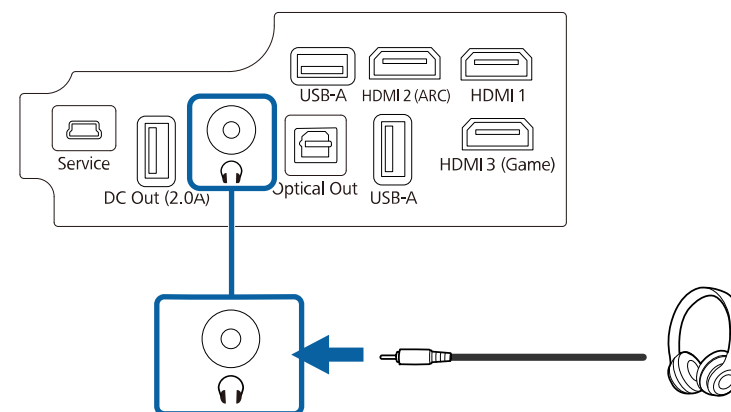
ヘッドフォンを接続する

本機のAudio Out端子にはヘッドフォンを接続できます。本機のリモコンで音量を調整できます。

注意

本機のAudio Out端子は3極プラグのヘッドフォン専用です。3極プラグ以外のヘッドフォンを接続すると、音声は正常に再生されない可能性があります。

- 1** ヘッドフォンのケーブルを本機のAudio Out端子に接続します。



⚠ 注意

初めから音量を上げすぎないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。

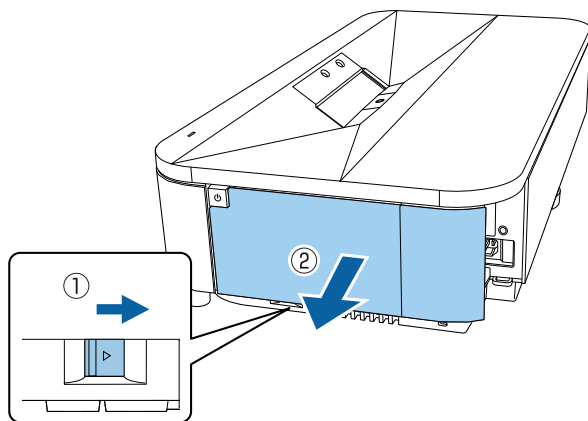
電源を切る前に音量を下げておき、電源を入れた後で徐々に上げてください。

サイドカバーを取り付ける

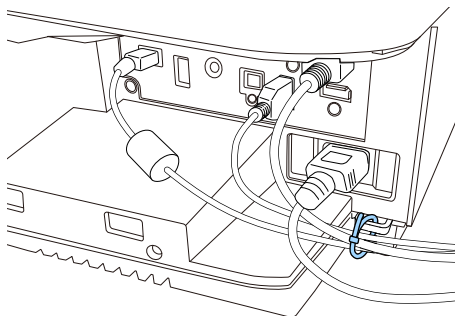
30

サイドカバーを装着して、ケーブル類を目立たなくすることができます。

1 サイドカバーを取り外します。



2 市販の結束バンドなどをケーブルホルダーに通し、ケーブル類を束ねます。



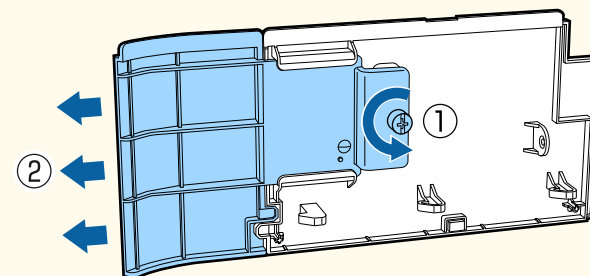
⚠ 注意

電源コードとその他の接続ケーブルを束ねないでください。火災の原因となることがあります。

3 サイドカバーを取り付けます。



サイドカバーは、サイドカバーAとサイドカバーBの2つに分解できます。メディアストリーミング端末に接続するときなど、必要に応じてサイドカバーAのみを本機に取り付けて使うことができます。

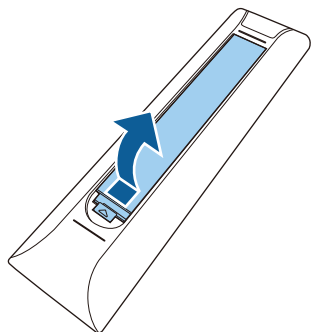


本機に付属の単4形電池2個をリモコンに取り付けます。

注意

電池を取り扱う前に、『安全にお使いいただくために』を必ずお読みください。

- 1 電池カバーを外します。

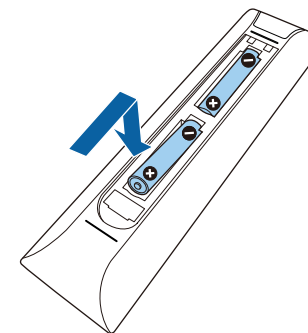


- 2 古い電池が入っていれば取り外します。



使用済みの電池は、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

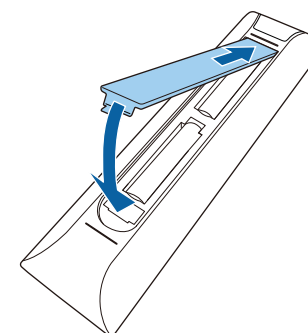
- 3 電池の + と - の向きを確認してリモコンにセットします。



警告

電池ホルダー内の表示を確認して、(+) (-) を正しく入れてください。電池の使い方を誤ると、電池の破裂・液もれにより、火災・けが・製品腐食の原因となることがあります。

- 4 電池カバーを閉め、カチッと音がするまで押し込みます。



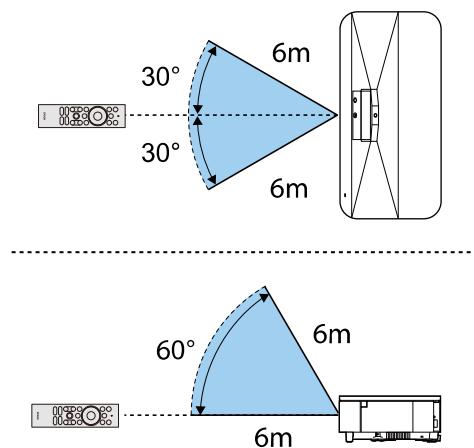
▶ 関連項目

- 「リモコンを操作する」 [p.32](#)

リモコンを操作する

リモコンを使用して、室内の離れた場所からプロジェクターを制御できます。

リモコンは、本機のリモコン受光部に対して下図の角度で使用することをお勧めします。



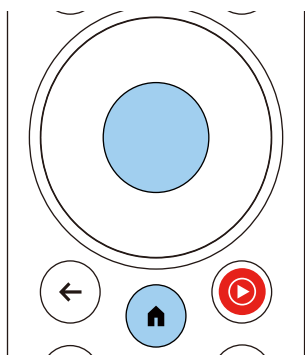
蛍光灯の強い光や直射日光が当たる環境でリモコンを使用すると、本機が正しく動作しないことがあります。リモコンを長期間使用しないときは、電池を取り外しておきます。

最初に本機の電源を入れたときには、Android TVの初期設定が必要です。



初期設定が完了した後も、設定はいつでも変更できます。リモコンの⚙️ボタンを押してメニューを表示し、設定を変更します。

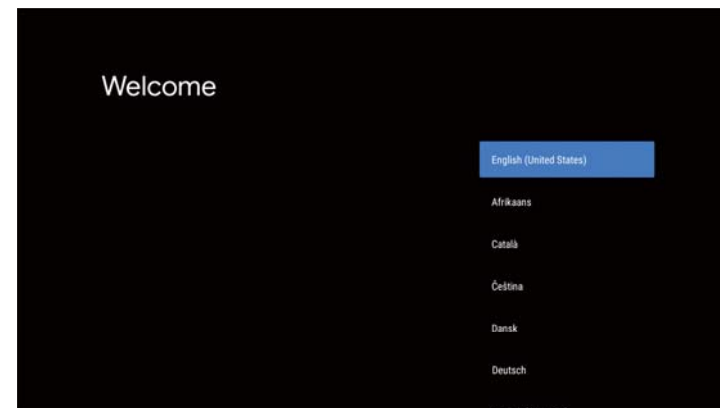
- 1 本機の電源を入れます。
- 2 ペアリング画面が表示されたら、【決定】ボタンと🏠ボタンを同時に長押しして、本機とリモコンをペアリングしてください。



ペアリングが始まると、リモコンのインジケータが点滅します。終了すると、インジケータは消灯します。

- 3 ペアリング後は画面の指示に従って必要な設定を行ってください。

- 4 言語選択画面が表示されたら、使用したい言語を選択します。



- 5 Wi-Fi設定画面が表示されたら、接続する無線LANを選択します。画面の指示に従って必要な設定をします。
 - オンラインコンテンツを視聴するには、インターネット接続が必要です。Wi-Fiが使用できることを確認してください。
 - アプリのダウンロードやオンラインコンテンツを視聴する際の通信料はお客様の負担となります。
- 6 ログイン画面が表示されたら、Googleアカウントでログインします。
 - Googleアカウントでログインすると、Google Playからさまざまな人気アプリやゲームをダウンロードできます。
 - Googleアカウントは、お使いのコンピューターやスマートフォンからも作成できます。

初期設定が完了すると、ホーム画面が表示されます。

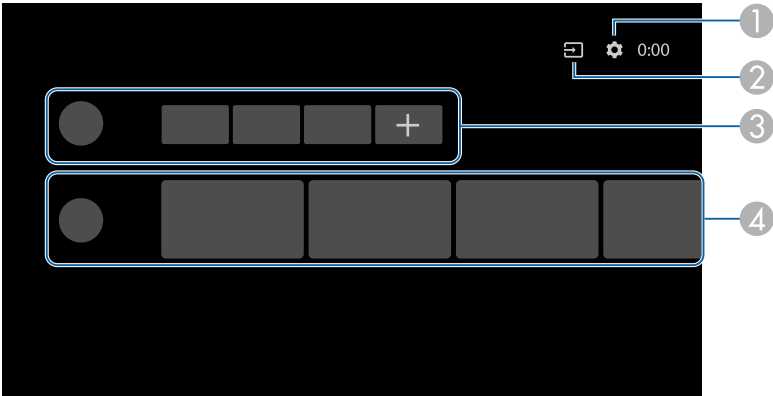
▶▶ 関連項目

- 「Android TVホーム画面」 [p.34](#)

Android TVホーム画面

本機の電源を入れたときや、 ボタンを押したときには、Android TVのホーム画面が表示されます。

ホーム画面を使うと、オンラインコンテンツ、アプリ、プロジェクター設定などを簡単に選択できます。



	説明
①	[設定] メニューを表示します。Wi-Fi設定、言語設定、Googleアカウントの情報などを変更できます。
②	入力ソースの一覧を表示します。
③	ダウンロードしたアプリを表示します。+アイコンでアプリを追加できます。
④	おすすめのオンラインコンテンツを表示します。

プロジェクターの基本機能を使用する

本機の基本機能を説明します。

▶ 関連項目

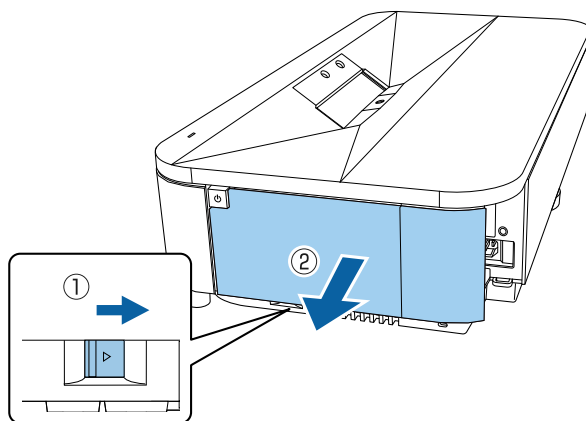
- 「プロジェクターの電源を入れる」 [p.36](#)
- 「プロジェクターの電源を切る」 [p.38](#)
- 「設置モードを選択する」 [p.39](#)
- 「映像の高さを調整する」 [p.40](#)
- 「ピントを調整する」 [p.41](#)
- 「壁面投写時の映像の色味を調整する」 [p.42](#)
- 「映像のゆがみを補正する」 [p.43](#)
- 「環境に応じて光源の明るさを設定する」 [p.45](#)
- 「手動で光源の明るさを設定する」 [p.46](#)
- 「コンテンツの明るさに応じてコントラストを調整する」 [p.47](#)
- 「映像を切り替える」 [p.49](#)
- 「映像のアスペクト比を設定する」 [p.50](#)
- 「カラーモードを設定する」 [p.52](#)
- 「映像の画質を調整する」 [p.54](#)
- 「音量ボタンで音量を調整する」 [p.57](#)
- 「サウンドを調整する（サウンドモード）」 [p.58](#)
- 「音声を一時的にオフにする（音声ミュート）」 [p.62](#)
- 「映像を一時的に非表示にする（ブランク）」 [p.63](#)

使用前にプロジェクターの電源を入れます。

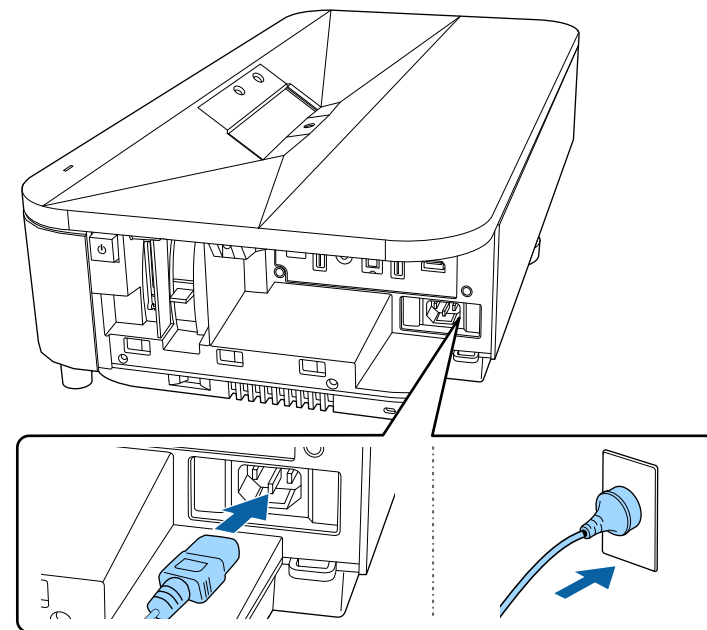


本機にビデオ機器を接続するときは、本機の電源を入れてから、ビデオ機器の電源を入れます。

1 サイドカバーを取り外します。



2 本機とコンセントを電源コードで接続します。



本機はスタンバイ状態になります。スタンバイ状態は、プロジェクターに電力が供給されていて、電源が入っていない状態です。

3 プロジェクターまたはリモコンの電源ボタンを押して電源を入れます。

ステータスインジケーターが青色に点滅します（ウォームアップ状態）。ウォームアップが終わると、ステータスインジケーターが青色に点灯します。

最初に本機の電源を入れたときは、リモコンのペアリング画面と初期設定画面が表示されます。画面の指示に従って、設定してください。

警告

- 投写中は本機のレンズをのぞきこまないでください。目に損傷を与えるおそれがあります。特にお子様の行動にご注意ください。
- 本機から離れた場所でリモコンを使って電源を入れるときは、レンズをのぞいている人がいないことを確認してください。
- 投写中に本などで投写光を遮らないでください。投写光を遮ると、光の当たった部分が高温になって溶けたり、やけどや火災の原因になります。また、反射した光でレンズ部が高温になり、本機が故障する原因となります。投写を中断するときは、本機の電源を切ってください。



標高1,500 m以上の場所でお使いのときは、[高地モード] を [オン] に設定します。

 [設定] > [高地モード]

▶▶ 関連項目

- 「設定メニュー」 [p.84](#)

使用後にプロジェクターの電源を切ります。



- 本機を長くお使いいただくために、使用しないときは本機の電源を切ってください。光源の寿命は、環境条件や使用状況によって異なります。投写映像の明るさは、使用時間の経過にともなって低下します。
- 電源ボタンを押したときの動作は、[設定] メニューの [電源ボタン設定] により異なります。

- 1** プロジェクターまたはリモコンの電源ボタンを押します。
光源がオフになり、ステータスインジケーターが消灯します。
- 2** 本機を搬送または保管するときは、ステータスインジケーターが消灯していることを確認してから電源コードを抜いてください。

▶▶ 関連項目

- 「設定メニュー」 [p.84](#)

プロジェクターの設置方法によって、設置モードを変更します。

- [フロント]：机上に設置して、スクリーンの正面から投写します。
- [フロント・上下反転]：天吊り設置して、映像を上下反転して投写します。
- [リア]：リアスクリーンの裏側から映像を左右反転して投写します。
- [リア・上下反転]：天吊り設置して、リアスクリーンの裏側から映像を上下左右反転して投写します。

▶ 関連項目

- 「メニューから設置モードを変更する」 [p.39](#)
- 「プロジェクターの設置・取り付け」 [p.19](#)

メニューから設置モードを変更する

メニューから設置モードを変更して、映像を上下左右反転します。

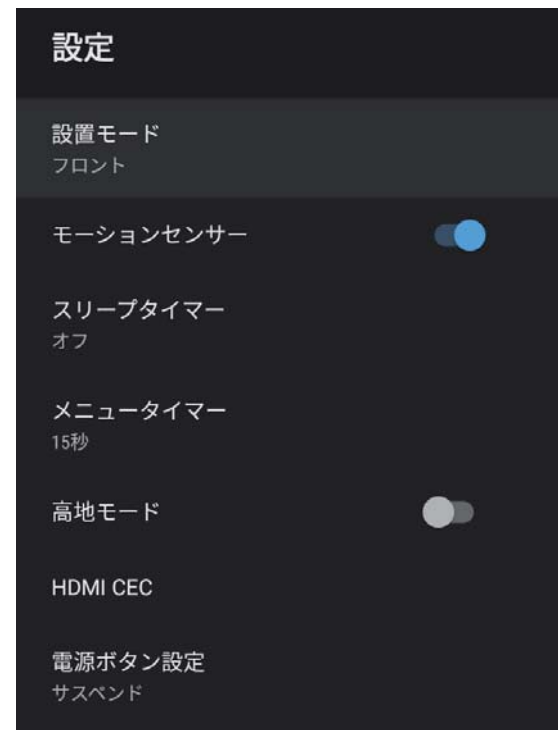
1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの  ボタンを押します。



入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、このボタンは使用できません。まずリモコンの  ボタンを押してAndroid TVホーム画面に戻り、それから手順を実行してください。

3 [設定] を選択して、【決定】ボタンを押します。



4 [設置モード] を選択して、【決定】ボタンを押します。

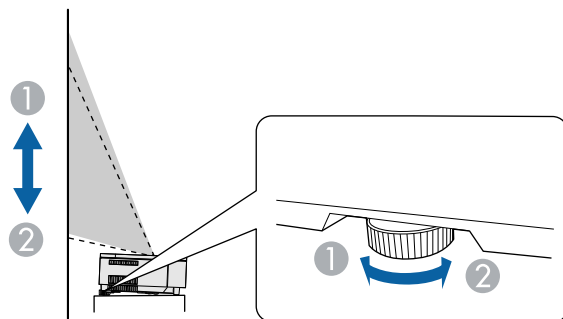
5 お使いの環境に合わせた設置モードを選択して、【決定】ボタンを押します。

6  ボタンを押してメニューを終了します。

机などの平らな場所に置いて投写するときは、プロジェクターのフットを使って高さを調整します。

傾斜角度が大きくなると、ピントが合いにくくなります。傾斜角度が小さくなるようにプロジェクターを設置してください。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リアフットを回して映像の高さを調整します。



- ① フットを伸ばす
- ② フットを縮める

投写映像がゆがむときは、映像の形状を補正します。

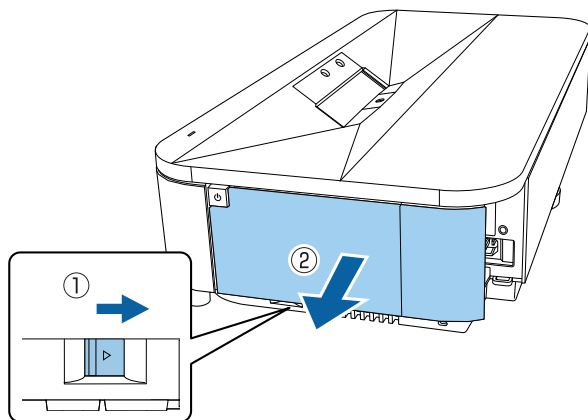
▶ 関連項目

- 「映像のゆがみを補正する」 [p.43](#)

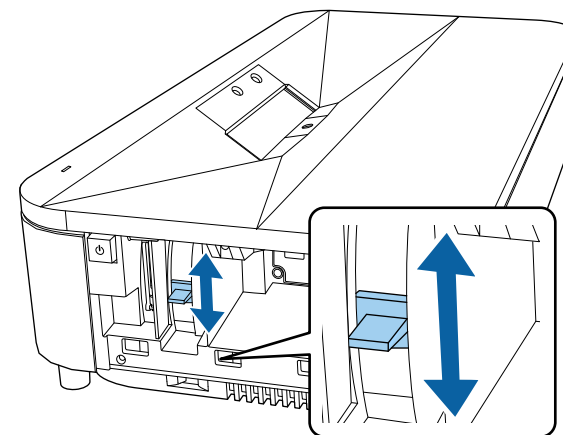
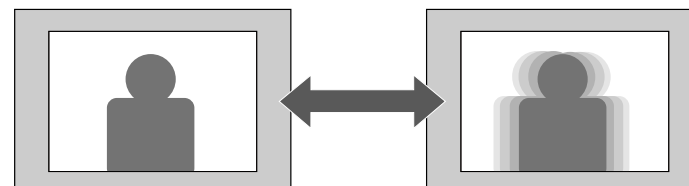
フォーカスレバーを使用して、ピントのズレを補正します。

1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 サイドカバーを取り外します。



3 フォーカスレバーを動かして、ピントを合わせます。



4 サイドカバーを取り付けます。

壁に映像を投写するときは、あらかじめ用意されている設定を使用して壁の色に合わせて色を補正することができます。

より詳細な色の調整は、[画質] メニューから行うことができます。

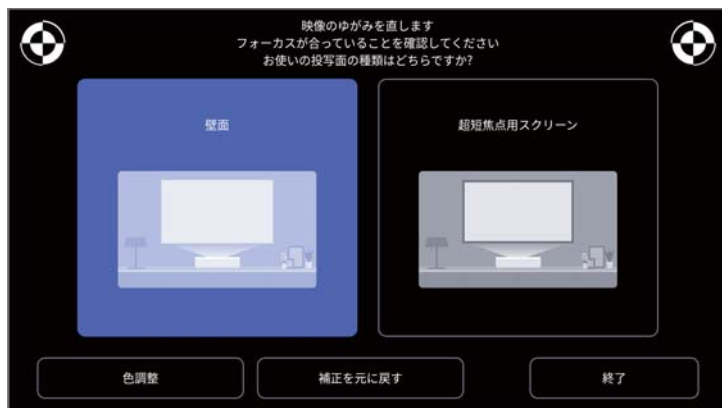
1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの  ボタンを押します。



入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、このボタンは使用できません。まずリモコンの  ボタンを押してAndroid TVホーム画面に戻り、それから手順を実行してください。

3 [設置] を選択して、【決定】 ボタンを押します。



4 [色調整] を選択し、【決定】 ボタンを押します。

5 壁の色にもっとも近い色を選択し、[OK] を選択して、【決定】 ボタンを押します。



投写映像が湾曲していたり長方形でないときは、[設置] メニューの画面の指示に従って投写映像のゆがみを補正できます。

補正後は、映像が少し小さくなります。



カメラ機能付きスマートフォンまたはタブレットでEpson Setting Assistantを使うと、より簡単にゆがみを補正することができます。投写画面に表示されるQRコードを読み取ってアプリをインストールしてください。アプリをダウンロードする際の通信料はお客様の負担となります。

1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの ボタンを押します。



入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、このボタンは使用できません。まずリモコンの ボタンを押してAndroid TVホーム画面に戻り、それから手順を実行してください。

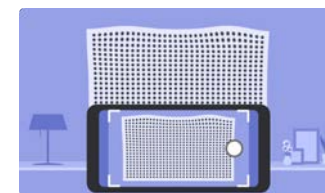
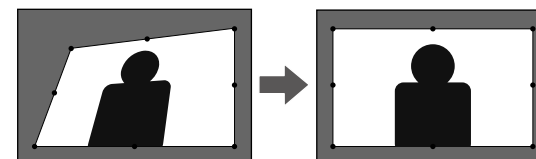
3 [設置] を選択して、【決定】 ボタンを押します。



4 投写画面の左右上部にある印を見ながら、フォーカスレバーでフォーカスを調整します。



5 画面の指示に従って、映像のゆがみを補正します。



メニューを閉じるにはリモコンの ボタンを押します。

▶▶ 関連項目

- 「設置メニュー」 [p.83](#)

適応レーザーライト出力をオンにすると、使用環境の明るさに応じて光源の明るさを自動で調整できます。



- リモコンを使って手動で光源の明るさを調整することもできます。自動で設定された値よりも、手動で設定した値が優先されます。
- この設定は、手動で設定した値に応じて変化するため、絶対値にはなりません。
- 蛍光灯の強い光や直射日光が当たる環境では、本機能が正しく動作しないことがあります。

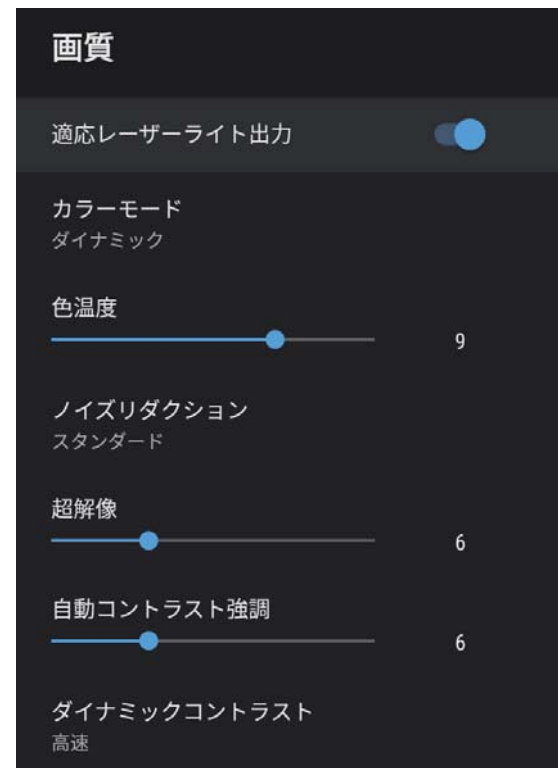
1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの  ボタンを押します。



入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、このボタンは使用できません。まずリモコンの  ボタンを押してAndroid TVホーム画面に戻り、それから手順を実行してください。

3 「画質」を選択して、【決定】ボタンを押します。



4 「適応レーザーライト出力」メニューを選択し、【決定】ボタンを押して設定を有効にします。

5  ボタンを押してメニューを終了します。

▶ 関連項目

- 「画質メニュー」 [p.78](#)

光源の明るさを設定します。



以下の条件のときはこの機能を使用できません。

- 使用する環境の温度が高くなり、光源の明るさを落としているとき
- 異常が起きているとき

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの☀️ボタンまたは☀️ボタンを押して、光源出力を調整します。
光源出力ゲージが画面に表示されます。

ダイナミックコントラストをオンにすると、投写映像の光量を自動的に調整できます。光量を自動的に調整することで、映像の明るさに合わせてコントラストを改善します。

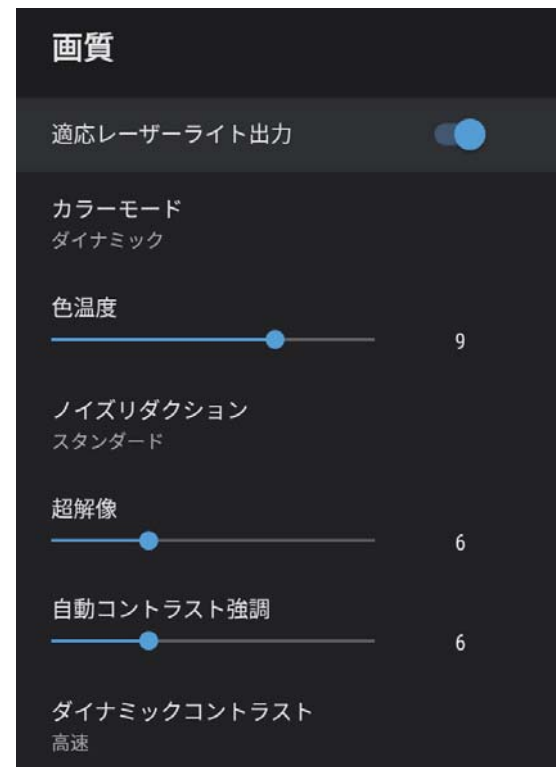
1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの  ボタンを押します。



入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、このボタンは使用できません。まずリモコンの  ボタンを押してAndroid TVホーム画面に戻り、それから手順を実行してください。

3 [画質] を選択して、【決定】 ボタンを押します。



4 [ダイナミックコントラスト] を選択して、【決定】 ボタンを押します。

5 次のいずれかを選択して、【決定】 ボタンを押します。

- [高速]：シーンが切り替わったとき、すぐに光量を調整します。
- [ノーマル]：標準の光量調整を行います。

6  ボタンを押してメニューを終了します。

▶▶ 関連項目

- 「画質メニュー」 [p.78](#)

複数の機器をプロジェクターに接続しているときは、投写する映像を切り替えます。

- 1** 接続機器の電源が入っていることを確認します。
- 2** ビデオ機器の映像を表示するときは、DVDなどのメディアを挿入して再生します。
- 3** 次のいずれかの操作を行います。
 - 入力ソースをHDMI1またはHDMI2に切り替えたいときは、リモコンの  ボタンを押します。
次に、投写する入力ソースを選択します。
 - 入力ソースを HDMI3 (Game)に切り替えたいときは、リモコンの  ボタンを押します。
 - 入力ソースをAndroid TVホーム画面に切り替えたいときは、リモコンの  ボタンを押します。



- 入力ソースが HDMI3 (Game)の場合、使用できないリモコンボタンがあります。
- 映像が表示されないときは、本機とビデオ機器が正しく接続されていることを確認してください。

▶ 関連項目

- 「サウンドメニュー」 [p.80](#)
- 「プロジェクターを接続する」 [p.25](#)
- 「プロジェクターの各部名称 - プロジェクターリモコン」 [p.13](#)

本機はさまざまな縦横比（アスペクト比）で映像を表示できます。通常は、接続機器からの入力信号によって映像のアスペクト比が決まります。映像をスクリーンに合わせるために、手動でアスペクト比を切り替えることもできます。

常に特定のアスペクト比で投写するときは、[画質] メニューでアスペクト比を設定します。

▶ 関連項目

- ・「映像のアスペクト比を切り替える」 [p.50](#)
- ・「アスペクトモードの種類」 [p.51](#)

映像のアスペクト比を切り替える

投写する映像のアスペクト比（縦横比）を切り替えます。

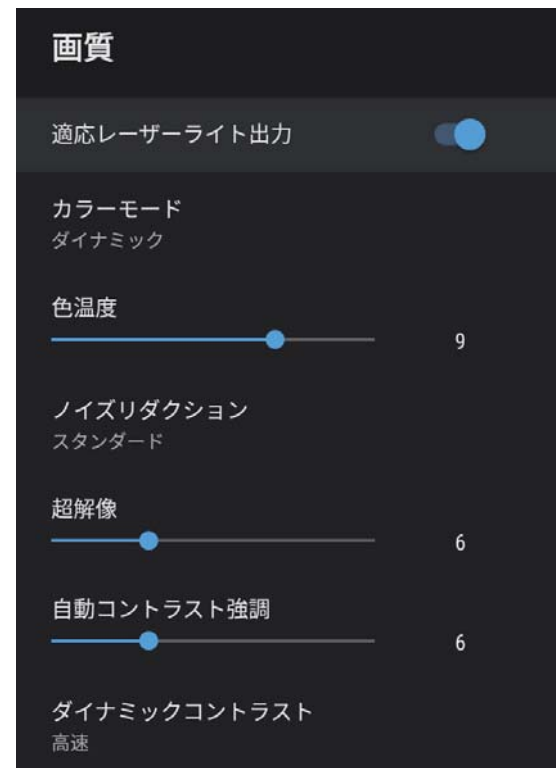
1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの  ボタンを押します。



入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、このボタンは使用できません。まずリモコンの  ボタンを押してAndroid TVホーム画面に戻り、それから手順を実行してください。

3 [画質] を選択して、【決定】 ボタンを押します。



4 [アスペクト比] を選択して、【決定】 ボタンを押します。

5 入力信号に合わせてアスペクト比を選択して、【決定】 ボタンを押します。

6  ボタンを押してメニューを終了します。

アスペクトモードの種類

接続機器からの入力信号に応じて、以下のアスペクト比を選択できます。



- 著作権法で保護されている映像をアスペクト機能で圧縮、引き伸ばし、分割などを行い、営利目的で公衆に視聴させた場合は、著作権者の権利を侵害するおそれがあります。

アスペクトモード	説明
ノーマル	入力信号のアスペクト比を維持し、投写エリア全体に映像を表示します。
フル	入力信号のアスペクト比を維持せずに、投写エリア全体に映像を表示します。
ズーム	入力信号のアスペクト比を維持して、投写エリアの横幅に合わせて映像を表示します。

本機は、投写環境や映像の種類に応じて、明るさ、コントラスト、色を最適化するためのカラーモードを用意しています。環境や映像の種類に合ったカラーモードを選択できます。

▶ 関連項目

- 「カラーモードを変更する」 [p.52](#)
- 「カラーモードの種類」 [p.53](#)

カラーモードを変更する

リモコンで「カラーモード」を変更して、映像を最適化します。

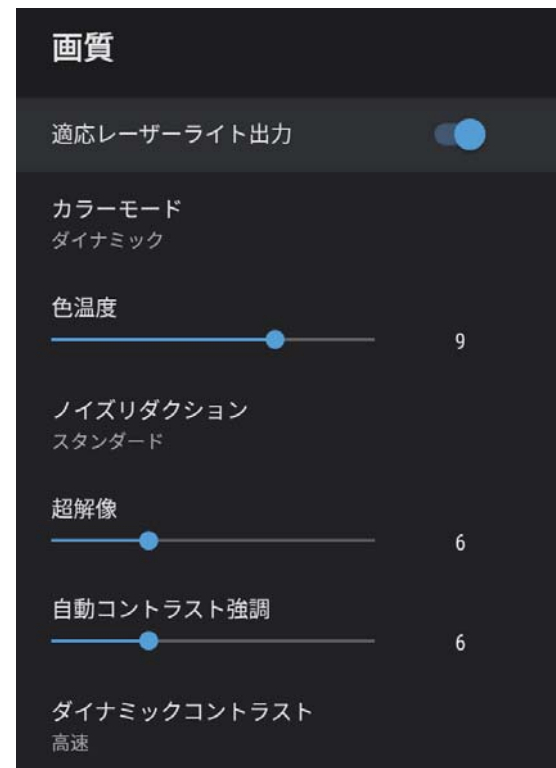
1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの  ボタンを押します。



入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、このボタンは使用できません。まずリモコンの  ボタンを押してAndroid TVホーム画面に戻り、それから手順を実行してください。

3 「画質」を選択して、【決定】ボタンを押します。



4 「カラーモード」を選択して、【決定】ボタンを押します。

5 お好みのカラーモードを一覧から選択して、【決定】ボタンを押します。

6  ボタンを押してメニューを終了します。

▶ 関連項目

- 「画質メニュー」 [p.78](#)

カラーモードの種類

投写環境や映像の種類に応じて、以下のカラーモードを設定できます。

カラーモード	説明
ダイナミック	最も明るいモードです。明るさを優先したい場合に適しています。
ビビッド	色鮮やかにさまざまなコンテンツを楽しむ場合に適しています。
シネマ	映画などのコンテンツを楽しむのに適しています。
ナチュラル	自然な色合いのモードです。映像の色調整を行うときは、本モードを選択することをお勧めします。

投写映像の画質を細かく調整できます。

▶ 関連項目

- ・「映像を最適化する（詳細設定）」 [p.54](#)
- ・「映像の解像感を調整する」 [p.55](#)
- ・「フレーム補間を設定する」 [p.56](#)

映像を最適化する（詳細設定）

投写映像の品質と色合いを細かく調整できます。



シーンに応じて階調表現を最適化し、メリハリのある映像にするときは「シーン適応ガンマ補正」で映像を補正します。

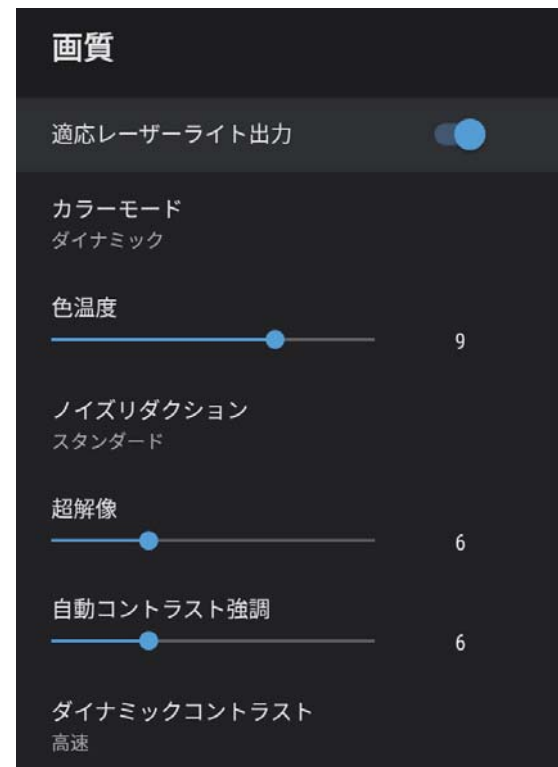
1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの  ボタンを押します。



入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、このボタンは使用できません。まずリモコンの  ボタンを押してAndroid TVホーム画面に戻り、それから手順を実行してください。

3 「画質」を選択して、【決定】ボタンを押します。



4 「カスタム設定」を選択して、【決定】ボタンを押します。

5 次のいずれかを選択します。

- ・ [明るさ]：映像の明るさを調整します。
- ・ [コントラスト]：映像の明暗の差を調整します。
- ・ [彩度]：映像の鮮やかさを調整します。
- ・ [色合い]：映像全体の色合いを調整します。
- ・ [シャープネス]：映像の輪郭の見え方を調整します。

6 ◀ ボタンを押してメニューを終了します。



映像の青みが強すぎる、赤みが強すぎるなどのときは、[画質] メニューの[色温度]で映像全体の色合いを調整します。

▶ 関連項目

- 「画質メニュー」 [p.78](#)

映像の解像感を調整する

映像の解像感を調整することで、質感や素材感のあるくっきりとした映像を表現できます。

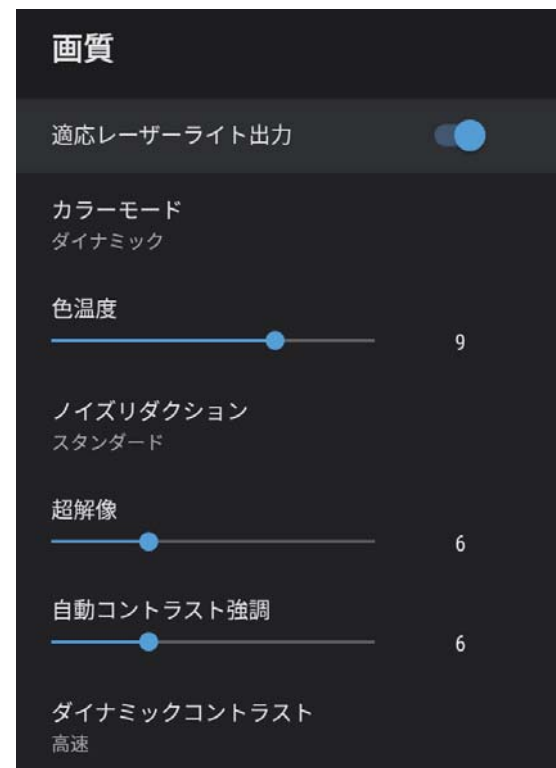
1 本機の電源を入れ、投写したい映像に切り替えます。

2 リモコンの  ボタンを押します。



入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、このボタンは使用できません。まずリモコンの  ボタンを押してAndroid TVホーム画面に戻り、それから手順を実行してください。

3 [画質] を選択して、【決定】 ボタンを押します。



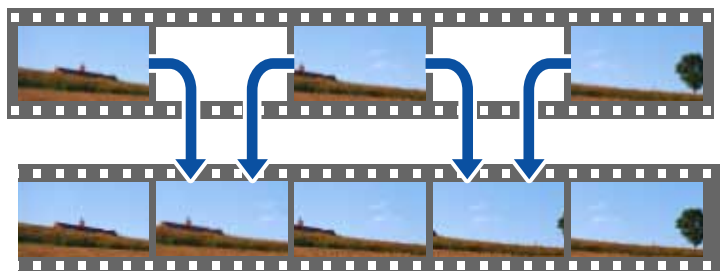
4 必要に応じて、[画質] メニューでそれぞれの設定値を個別に調整します。

- [ノイズリダクション]：映像のざらつきを抑えます。
- [超解像]：解像度の低い映像を投写するときに、解像度を高めて映像のボケを軽減します。
- [自動コントラスト強調]：映像のコントラストを部分的に自動調整して、鮮やかでメリハリのある映像にします。

- 5 ④ ボタンを押してメニューを終了します。

フレーム補間を設定する

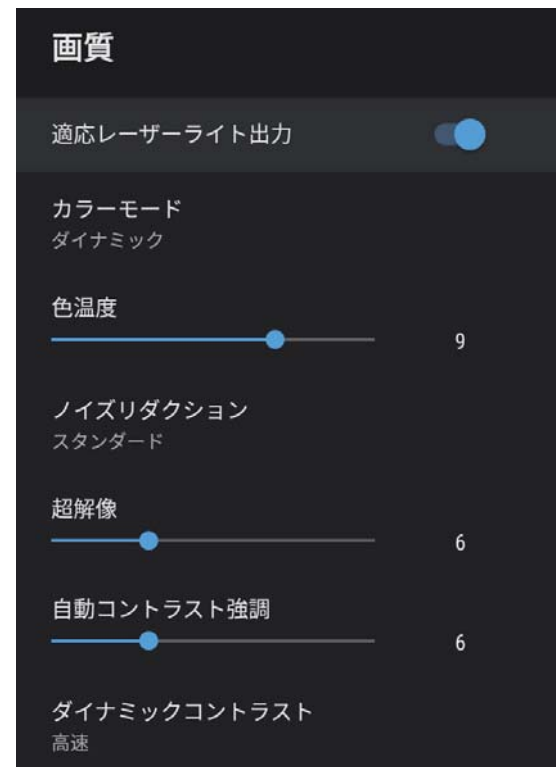
〔フレーム補間〕機能を使って、前後のフレームから中間のフレームを自動生成して補間することで、動きの速い動画をなめらかに再生できます。



入力ソースがHDMI3 (Game)以外のときに、フレーム補間を使用できます。

- 1 本機の電源を入れ、投写したい映像に切り替えます。
- 2 リモコンの④ ボタンを押します。

- 3 〔画質〕を選択して、【決定】ボタンを押します。



- 4 〔フレーム補間〕を選択して、【決定】ボタンを押します。
- 5 補間レベルを選択して【決定】ボタンを押します。
- 6 ④ ボタンを押してメニューを終了します。

音量ボタンで音量を調整できます。

- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** リモコンの  ボタンまたは  ボタンを押して、音量を調整します。
音量調節画面が表示されます。

注意

初めから音量を上げすぎないでください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。

電源を切る前に音量を下げておき、電源を入れた後で徐々に上げてください。

▶ 関連項目

- 「設定メニュー」 [p.84](#)

本機は、お使いの投写環境に応じて、音声を最適化するためのサウンドモードを用意しています。

映像の種類や投写環境に合ったサウンドを選択できます。



本機のスピーカーから出力される音声のみ調整できます。

1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの  ボタンを押します。



入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、このボタンは使用できません。まずリモコンの  ボタンを押してAndroid TVホーム画面に戻り、それから手順を実行してください。

3 [サウンド] を選択して、【決定】 ボタンを押します。



4 [サウンドモード] を選択して、【決定】 ボタンを押します。

5 お好みのサウンドモードを選択して、【決定】 ボタンを押します。

6 お使いの投写環境に応じて、サラウンドなどの詳細を設定します。

7  ボタンを押してメニューを終了します。

▶ 関連項目

- ・「サウンドモードの種類」 [p.59](#)
- ・「サウンドの詳細設定」 [p.59](#)
- ・「サウンドメニュー」 [p.80](#)

サウンドモードの種類

本機の［サウンド］メニューでは、以下のサウンドモードを設定できます。

サウンドモード	説明
シアター	サラウンド効果により映画館の音響環境を再現します。臨場感と迫力のあるサウンドをお楽しみいただけます。
テレビ	音声を聞きやすく再生します。ニュース、ドキュメンタリーなどのテレビ番組を視聴する場合に適しています。
スタジオ	幅広い周波数帯域の再生とバランスの取れた音質により、クリエイターやアーティストが意図するサウンドを再現します。
スタジアム	スタジアムや観衆の雰囲気を実際に再現して、実況音声をはっきりと再生します。臨場感のあるスポーツ観戦をお楽しみいただけます。
ライブ/コンサート	コンサート会場の広がりや残響を再現して、高揚感を演出します。
カラオケモード	コンサート会場の広がりや残響を再現するため、カラオケコンテンツを再生する場合に適しています。カラオケ用のアプリやマイクが提供する音声効果を損なわずに楽曲を再生できます。

サウンドの詳細設定

お使いの環境に合わせて、詳細なサウンドの設定ができます。

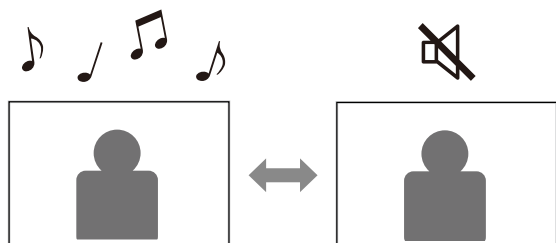
設定	説明
バーチャルサラウンド	サラウンド効果の強度を調整します。設定値はサウンドモードごとに保存されます。
クリアボイス	音声がはっきりと聞こえるように調整します。設定値はサウンドモードごとに保存されます。
オートラウドネス	小さな音量で再生する場合でも、高音と低音のバランスが崩れないように自動で補正します。
バスエクステンション	低音域の強調処理により、力強い低音を再現します。
サウンドスペース	視聴位置に適した音質に調整します。

設定	説明
音声出力	入力ソースと音声出力機器を選択します。 • [HDMI3 (Game)以外] • [Speaker/Optical (PCM)]：Optical Out端子に接続している外部オーディオ機器と本機のスピーカーにPCM（2ch）で出力します。 • [Speaker/Optical (Auto)]：本機のスピーカーにPCM（2ch）で出力します。Optical Out端子に接続している外部オーディオ機器に高品質の音声出力します。 • [ARC/Optical (PCM)]：HDMI2 (ARC)端子に接続しているARC対応の外部オーディオ機器と、Optical Out端子に接続している外部オーディオ機器にPCM（2ch）で出力します。 • [ARC/Optical (Auto)]：HDMI2 (ARC)端子に接続しているARC対応の外部オーディオ機器と、Optical Out端子に接続している外部オーディオ機器に高品質の音声出力するときに選択します。 [Auto] は以下の音声コーデックに対応しています。 • PCM（2ch） • AC-3（最大 5.1ch） • DTS（最大 5.1ch）

設定	説明
	 • 音声が入正しく出力されないときは [PCM] を選択してください。 • HDMI2 (ARC)端子から音声出力するときは、入力ソースによって音声の出力形式が異なります。 • 入力ソースが [HDMI] のとき：音声は最大5.1ch（AC-3、またはDTS）で出力されます。 • Android TVのコンテンツを再生するとき：音声は 2ch（PCM）で出力されます。 • [HDMI3 (Game)] • [Speaker (PCM)]：本機のスピーカーにPCM（2ch）で出力します。 • [Optical (PCM)]：Optical Out端子に接続している外部オーディオ機器にPCM（2ch）で出力します。 • [Optical (Digital Audio)]：Optical Out端子に接続している外部オーディオ機器に高品質の音声出力するときに選択します。 [Digital Audio] は以下の音声コーデックに対応しています。 • PCM（2ch） • AC-3（最大 5.1ch） • DTS（最大 5.1ch）

設定	説明
	 音声が入正しく出力されないときは「PCM」を選択してください。
音声遅延制御	映像と音声のずれを補正します。音声が入早いときは、値を高くします。 補正できるのは以下の音声です。 • 本機のスピーカーから出力される音声 • HDMI2 (ARC)端子から出力される音声 • Optical Out端子から出力される音声 入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、この設定は使用できません。

投写中の音声を一時的に消すことができます。

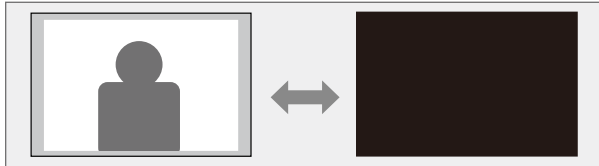


- 1** リモコンの  ボタンを押して一時的に音声を消します。
- 2** 再開するときは、再度  ボタンを押します。

映像を一時的に非表示にする（ブランク）

63

投写中の映像を一時的に非表示にすることができます。本機をスピーカーとして使用したいときに便利な機能です。



- 1** リモコンの  ボタンを押して、一時的に映像を非表示にします。
- 2** 投写を再開するときは、再度  ボタンを押します。



停止中も映像は進んでいるため、停止した場面から投写を再開することはできません。

プロジェクターの便利な機能

プロジェクターの各機能を使用します。

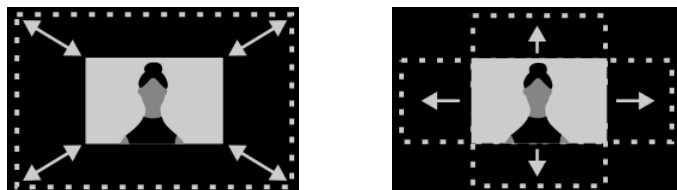
▶ 関連項目

- 「映像のサイズと位置を調整する（フレキシブルスクリーン）」 [p.65](#)
- 「映像を左右反転する（フレキシブルスクリーン）」 [p.66](#)
- 「映像のふちをぼかす（フレキシブルスクリーン）」 [p.67](#)
- 「プロジェクターをBluetoothスピーカーとして使用する」 [p.68](#)
- 「Chromecastとして使用する」 [p.70](#)
- 「HDMI CEC機能」 [p.71](#)
- 「セキュリティーケーブルを取り付ける」 [p.73](#)
- 「ファームウェアを更新する」 [p.74](#)
- 「プロジェクターを初期化する」 [p.75](#)

映像のサイズと位置を調整する（フレキシブルスクリーン）

65

本機を動かすことなく投写映像のサイズを小さくしたり、映像の位置を変更したりすることができます。



「フレキシブルスクリーン」メニューの表示中に^①ボタンを押すと、「フレキシブルスクリーン」メニューのすべての設定をリセットできます。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの^②ボタンを押して「フレキシブルスクリーン」メニューを表示します。



「設置」メニューの表示中はこのボタンを使用できません。

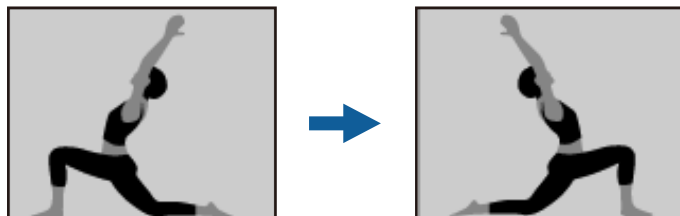
- 3 リモコンの^③または^④ボタンを押して、映像のサイズを調整します。



映像のサイズは30%まで縮小できます。

- 4 上下左右選択ボタンで映像の表示位置を移動できます。
- 5 ^⑤ボタンを押して「フレキシブルスクリーン」メニューを終了します。

投写映像を左右反転することができます。



- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押して「フレキシブルスクリーン」メニューを表示します。



「設置」メニューの表示中はこのボタンを使用できません。

- 3 再度  ボタンを押して投写映像を左右反転させます。



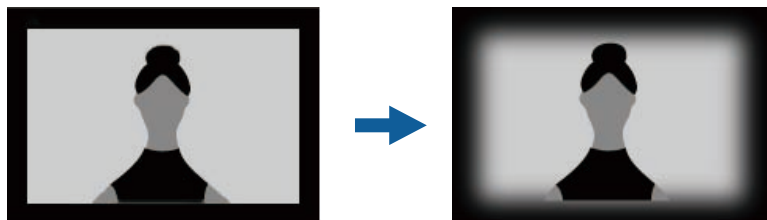
再度  ボタンを押すとリセットできます。

- 4  ボタンを押して「フレキシブルスクリーン」メニューを終了します。



「フレキシブルスクリーン」メニューの表示中に  ボタンを押すと、「フレキシブルスクリーン」メニューのすべての設定をリセットできます。

投写している壁に映像が溶け込むように、映像のふちをぼかすことができます。



- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 リモコンの  ボタンを押して「フレキシブルスクリーン」メニューを表示します。



「設置」メニューの表示中はこのボタンを使用できません。

- 3  ボタンを押して投写映像のふちをぼかします。



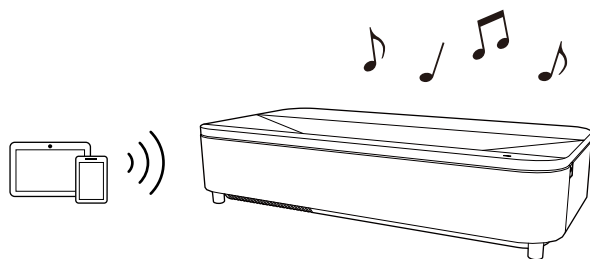
再度  ボタンを押すとリセットできます。

- 4  ボタンを押して「フレキシブルスクリーン」メニューを終了します。



「フレキシブルスクリーン」メニューの表示中に  ボタンを押すと、「フレキシブルスクリーン」メニューのすべての設定をリセットできます。

Bluetoothで接続した機器から、本機のスピーカーに音声を出力できます。



1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの  ボタンを押します。



入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、このボタンは使用できません。まずリモコンの  ボタンを押してAndroid TVホーム画面に戻り、それから手順を実行してください。

3 「Bluetoothスピーカーモード」メニューを選択し、【決定】ボタンを押して設定を有効にします。

4 接続する機器のBluetooth機能をオンにして、機器の一覧から「Projector」を選択します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。



- 初期設定では、プロジェクターの名称は「Projector」です。他の名前にしたり名前をカスタマイズしたいときは、リモコンの  ボタンを押して、表示された「デバイス設定」で設定してください。
- 音声のみを再生したいときは、リモコンの  ボタンを押して、映像を一時的に非表示にすることができます。
- Bluetooth接続を切断するときは、接続機器のメニューから切断してください。

5 終了するときは、「Bluetoothスピーカーモード」を「オフ」にします。



- Bluetooth接続した機器で再生される音声にはわずかに遅延が生じます。
- Bluetoothで複数の機器を同時に接続することはできません。
- Bluetooth対応のスピーカーやヘッドフォンを接続して、本機の音声をこれらの機器に出力することもできます。リモコンの  ボタンを押して表示されたメニューからペアリングしてください。
- Bluetooth機器は一部の国と地域では使用できません。

▶ 関連項目

- 「Bluetooth仕様」 [p.69](#)

Bluetooth仕様

バージョン	Bluetooth Ver. 5.0
出力	Class 2
通信可能距離	約10m
対応プロファイル	A2DP、AVRCP、HID、HOGP
使用周波数	2.4 GHz帯 (2.402 - 2.480 GHz)
対応コーデック	SBC、AAC

警告

医療機器、自動ドアや火災報知機などの自動制御機器の近くで使用しないでください。電磁妨害による誤動作や事故の原因となります。



- 機器の規格や種類によっては接続できないことがあります。
- 通信可能距離内で接続しているときでも、電波状況によっては接続が切れることがあります。
- Bluetoothの通信方式は無線LAN (IEEE802.11b/g/n) や電子レンジと同一の周波数帯 (2.4 GHz) を使用しています。そのため、同時に使用すると電波干渉が発生し、映像や音声途切れたり接続できないことがあります。同時に使用したいときは、Bluetooth機器をこれらの機器の近くで使用しないでください。

本機はChromecastを搭載しています。Chromecastが利用可能なアプリのコンテンツを投写することができます。

- 1** お使いの機器またはコンピューターを、本機と同じ無線LANネットワークに接続します。
- 2** Chromecastが利用可能なアプリを開き、を選択します。
- 3** デバイスの一覧から、本機を選択してください。



初期設定では、プロジェクターの名称は「Projector」です。
他の名前にしたり名前をカスタマイズしたいときは、リモコンのボタンを押してください。

アプリが接続され、プロジェクターへのキャストが開始します。

- 4** キャストを終了するには、アプリのを選択して、切断を選択します。

本機のHDMI端子にHDMI CEC規格に対応したAV機器を接続すると、接続機器同士の連携動作が本機のリモコンで操作できます。

▶ 関連項目

- 「HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する」 [p.71](#)

HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する

HDMI CEC機能を使って、接続したオーディオ機器を本機のリモコンで操作します。



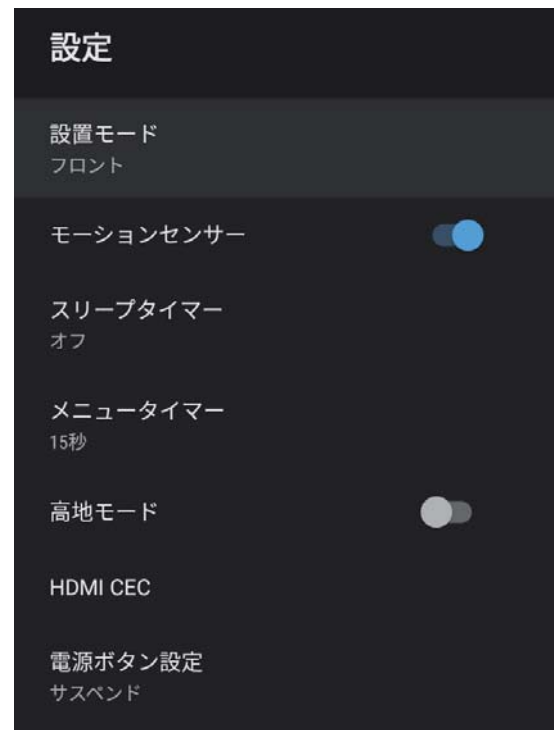
- 接続機器側の設定も必要です。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI CEC規格に対応していても動作しない接続機器や、動作しない機能があります。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- ケーブルがHDMIの規格に対応していないと動作しません。

1 リモコンの ボタンを押します。



入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、このボタンは使用できません。まずリモコンの  ボタンを押してAndroid TVホーム画面に戻り、それから手順を実行してください。

2 「設定」 を選択して、【決定】 ボタンを押します。



3 「HDMI CEC」 を選択して、【決定】 ボタンを押します。

4 「HDMI CEC」 を「オン」 にします。

5 必要に応じて、以下の項目を設定します。

- [自動電源調整]：本機の電源オフに連動して、接続機器の電源を切るときは「オン」に設定します。
- [自動言語変更]：本機の言語設定に合わせて、接続機器の言語設定を切り替えるときは「オン」に設定します。

- [HDMI2 ARC]：HDMI ARC対応のオーディオ機器に音声を出力するときは、[オン] に設定します。

6  ボタンを押してメニューを終了します。

本機のリモコンを使って接続機器の再生、停止、音量調整などの操作ができます。

▶ 関連項目

- 「設定メニュー」 [p.84](#)

盗難防止のために、Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティーシステムを、本機のセキュリティーロットに取り付けることができます。



マイクロセーバーセキュリティーシステムについての詳細は、
<http://www.kensington.com/>をご覧ください。

ネットワーク経由で、プロジェクターファームウェアを最新の状態に更新できます。



最新のプロジェクターファームウェアが利用可能な場合は、自動的に通知が表示されます。画面の指示に従って、ファームウェアを更新します。

1 リモコンの  ボタンを押します。



入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、このボタンは使用できません。まずリモコンの  ボタンを押してAndroid TVホーム画面に戻り、それから手順を実行してください。

2 アプリの一覧から  を選択して、【決定】ボタンを押します。

3 画面の指示に従って、ファームウェアを更新します。

注意

ファームウェアの更新中は、本機の電源を切らないでください。

本機のすべての設定を初期化することができます。



初期化を行うと、インストールされているアプリ、Googleアカウント情報、[プロジェクター設定] の内容などはすべて消去されます。消去したくない情報はメモしておくことをお勧めします。

- 1** リモコンの  ボタンを押します。
- 2** [デバイス設定] から初期化メニューを選択します。
- 3** 画面の指示に従って、初期化を開始します。

メニューの操作

プロジェクターメニューの使い方と基本的な設定について説明します。

▶ 関連項目

- 「プロジェクター設定を操作する」 [p.77](#)
- 「画質メニュー」 [p.78](#)
- 「サウンドメニュー」 [p.80](#)
- 「設置メニュー」 [p.83](#)
- 「設定メニュー」 [p.84](#)
- 「情報表示メニュー」 [p.86](#)
- 「Bluetoothスピーカーモードメニュー」 [p.87](#)

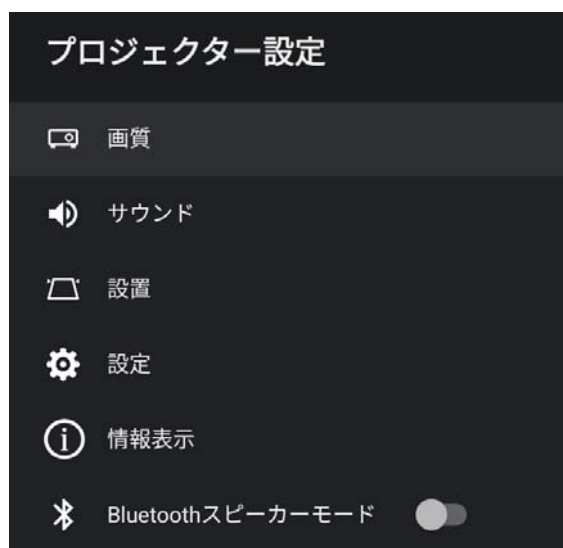
投写画面に表示されるメニューを使って、本機の各種動作を設定します。

- 1 リモコンの  ボタンを押します。



入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、このボタンは使用できません。まずリモコンの  ボタンを押してAndroid TVホーム画面に戻り、それから手順を実行してください。

[プロジェクター設定] メニューが表示されます。



- 6 メニューの設定が終わったら、 ボタンを押します。

- 7  ボタンを押してメニューを終了します。

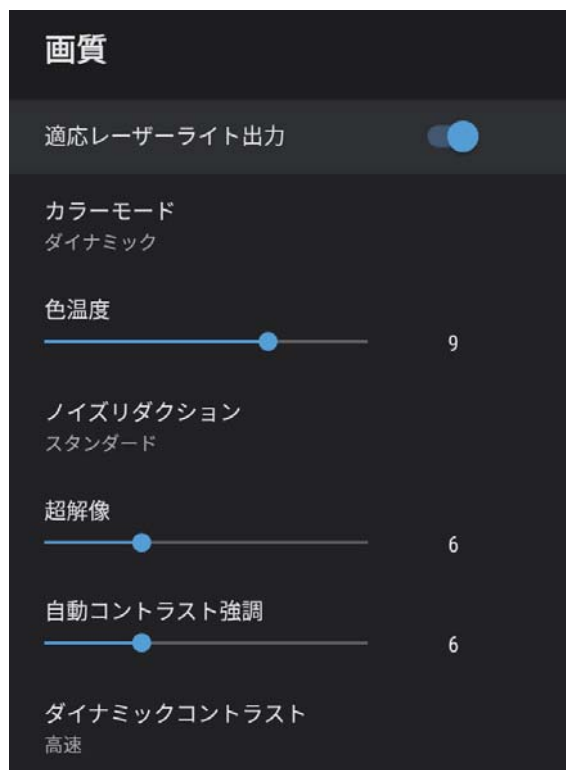
- 2 上下左右選択ボタンを押して、メニュー項目を上下に移動します。

- 3 設定を変更するには、【決定】ボタンを押します。

- 4 上下左右選択ボタンを押して、設定項目を選択します。

- 5 上下左右選択ボタンを押して、設定を変更します。

「画質」メニューでは、現在投写している入力ソースの映像の画質を調整できます。



設定	選択肢	説明
適応レーザーライト出力	オン オフ	光源の明るさを使用環境に応じて自動で調整します。 以下の条件のときはこの機能を使用できません。 ・ 設置メニューから外部機器に接続しているとき ・ 使用する環境の温度が高くなり、光源の明るさを落としているとき ・ モーションセンサーが投写窓の周囲で動きや障害物を検知したとき
カラーモード	ダイナミック ビビッド シネマ ナチュラル	映像の種類や使用環境に応じて、適切なカラーモードを選択します。
色温度	レベル調整	選択したカラーモードに応じて色温度を設定します。値を高くすると青みがかった映像になり、値を低くすると赤みがかった映像になります。
ノイズリダクション	強 スタンダード 弱 オフ	アナログ映像のざらつきを抑えます。ノイズリダクションの強さを選択します。 入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、この設定は使用できません。
超解像	レベル調整	解像度の低い映像を投写するときに、解像度を高めて映像のボケを軽減します。
自動コントラスト強調	レベル調整	映像のコントラストを部分的に自動調整して、鮮やかでメリハリのある映像にします。

設定	選択肢	説明
ダイナミックコントラスト	高速 標準 オフ	カラーモードごとに、映像の明るさに合わせて投写時の光量を調整します。
シーン適応ガンマ補正	レベル調整	シーンに応じて階調表現を最適化して、メリハリのある映像にします。コントラストを強調したいときは、大きい値を選択します。
フレーム補間	オフ 弱 標準 強	映像の動きの滑らかさを調整します。入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、この設定は「オフ」に固定されます。
カスタム設定	明るさ	映像の明るさを調整します。
	コントラスト	映像のコントラストを調整します。
	彩度	映像の鮮やかさを調整します。
	色合い	映像の色合いを調整します。
	シャープネス	カラーモードごとに、映像の輪郭の見え方を調整します。
HDR	レベル調整	映像の暗部、明部の表示できる範囲を切り替えます。 入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、この設定は2に固定されます。
アスペクト比	ノーマル フル ズーム	映像のアスペクト比（縦横比）を設定します。 入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、この設定は「ノーマル」に固定されます。

設定	選択肢	説明
HDMIビデオレンジ	オート フル リミテッド	HDMI端子に接続された機器の設定に合わせて、本機のビデオレベルを設定します。 入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、この設定は「オート」に固定されます。
EDID	HDMI1 HDMI2 HDMI3 (Game)	映像機器に通知する本機の解像度情報を設定します。投写中の入力ソースの解像度に合わせて、必要に応じて設定を変更してください。 入力ソースを切り替えることなく、ソースごとにEDIDを設定できます。

▶ 関連項目

- 「カラーモードを設定する」 [p.52](#)
- 「カラーモードの種類」 [p.53](#)
- 「映像を最適化する（詳細設定）」 [p.54](#)
- 「環境に応じて光源の明るさを設定する」 [p.45](#)
- 「手動で光源の明るさを設定する」 [p.46](#)
- 「コンテンツの明るさに応じてコントラストを調整する」 [p.47](#)

[サウンド] メニューでは、プロジェクターのサウンドを最適化するための設定ができます。映像の種類や投写環境に合ったサウンドを選択できます。



設定	選択肢	説明
サウンドモード	シアター テレビ スタジオ スタジアム ライブ/コンサート カラオケモード	再生するコンテンツの内容に適したサウンドモードを選択します。
バーチャルサラウンド	高 低 オフ	サラウンド効果の強度を調整します。設定値はサウンドモードごとに保存されます。
クリアボイス	高 低 オフ	音声をはっきりと聞こえるように調整します。設定値はサウンドモードごとに保存されます。
オートラウドネス	オン オフ	小さな音量で再生する場合でも、高音と低音のバランスが崩れないように自動で補正します。
バスエクステンション	オン オフ	低音域の強調処理により、力強い低音を再現します。
サウンドスペース	右 中央 左	視聴位置に適した音質に調整します。
音声出力		入力ソースと音声出力機器を選択します。

設定	選択肢	説明
	HDMI3 (Game)以外	[Speaker/Optical (PCM)] : Optical Out端子に接続している外部オーディオ機器と本機のスピーカーにPCM (2ch) で出力します。 [Speaker/Optical (Auto)] : 本機のスピーカーにPCM (2ch) で出力します。Optical Out端子に接続している外部オーディオ機器に高品質の音声を出力します。 [ARC/Optical (PCM)] : HDMI2 (ARC)端子に接続しているARC対応の外部オーディオ機器と、Optical Out端子に接続している外部オーディオ機器にPCM (2ch) で出力します。 [ARC/Optical (Auto)] : HDMI2 (ARC)端子に接続しているARC対応の外部オーディオ機器と、Optical Out端子に接続している外部オーディオ機器に高品質の音声を出力するときに選択します。 [Auto] は以下の音声コーデックに対応しています。 • PCM (2ch) • AC-3 (最大 5.1ch) • DTS (最大 5.1ch)

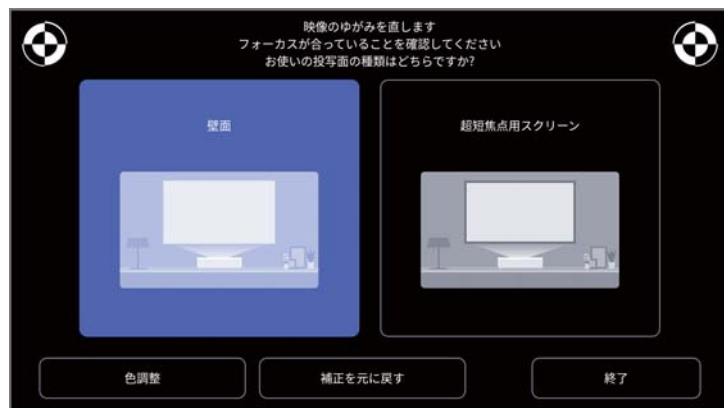
設定	選択肢	説明
		• 音声为正しく出力されないときは [PCM] を選択してください。 • HDMI2 (ARC)端子から音声を出力するときは、入力ソースによって音声の出力形式が異なります。 • 入力ソースが [HDMI] のとき：音声は最大5.1ch (AC-3、または DTS) で出力されます。 • Android TVのコンテンツを再生するとき：音声は 2ch (PCM) で出力されます。
	HDMI3 (Game)	[Speaker (PCM)] : 本機のスピーカーにPCM (2ch) で出力します。 [Optical (PCM)] : Optical Out端子に接続している外部オーディオ機器にPCM (2ch) で出力します。 [Optical (Digital Audio)] : Optical Out端子に接続している外部オーディオ機器に高品質の音声を出力するときに選択します。 [Digital Audio] は以下の音声コーデックに対応しています。 • PCM (2ch) • AC-3 (最大 5.1ch) • DTS (最大 5.1ch) 音声为正しく出力されないときは [PCM] を選択してください。

設定	選択肢	説明
音声遅延制御	レベル調整	映像と音声のずれを補正します。音声が多いときは、値を高くします。補正できるのは以下の音声です。 • 本機のスピーカーから出力される音声 • HDMI2 (ARC)端子から出力される音声 • Optical Out端子から出力される音声 入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、この設定は使用できません。

▶ 関連項目

- 「サウンドを調整する (サウンドモード)」 [p.58](#)

〔設置〕メニューの画面の指示に従って投写映像のゆがみを補正できます。



この画面で、映像の形状と投写映像に対して以下の補正が行えます。

- Epson Setting Assistantを使用して、投写映像のゆがみを素早く補正
- リモコンを使用して投写映像の4隅の位置を補正、またはポイント補正を微調整
- リモコンを使用して投写映像の上辺が直線になるように補正（本機を天吊り設置しているときは投写映像の下辺を補正）
- 壁の色と合うように投写映像の色を補正

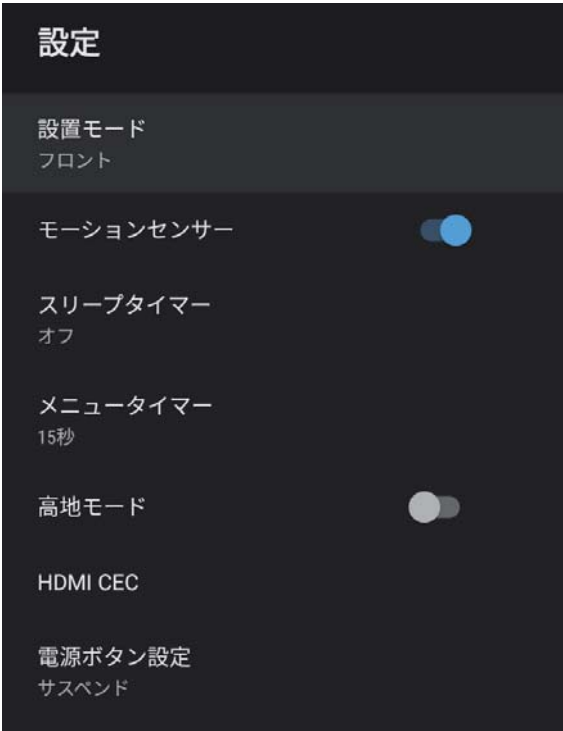


Epson Setting Assistantを使用する場合、〔フレキシブルスクリーン〕の設定はリセットされます。

▶ 関連項目

- 「映像のゆがみを補正する」 [p.43](#)

〔設定〕メニューでは、プロジェクターの各種設定ができます。



設定	選択肢	説明
設置モード	フロント リア フロント・上下反転 リア・上下反転	映像が正しい方向で投写されるように、スクリーンに対する本機の設置方法を選択します。
モーションセンサー	オン オフ	〔オン〕にすると、投写光に人が近づいたときに、安全のため自動的に光源の明るさを落とします。

設定	選択肢	説明
スリープタイマー	オフ～120分	設定した時間が経過すると、自動的に本機の電源を切ります。
メニュータイマー	オフ～240秒	設定した時間が経過すると、自動的に本機のメニューを閉じます。 入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、この設定は使用できません。
高地モード	オン オフ	標高約1500 m以上の場所で本機を使うように動作を制御します。
HDMI CEC	CECコントロール	本機のHDMI端子に接続されたオーディオ機器を、本機のリモコンから操作します。 〔HDMI CEC〕：〔オン〕にすると、本機のリモコンから接続機器を操作できます。 〔オン〕にすると、接続機器の電源を入れたときや、接続機器で再生を開始したときに、自動的に本機の電源をオンにします。 〔自動電源調整〕：〔オン〕にすると、本機の電源オフに連動して、自動的に接続機器の電源をオフにします。 〔自動言語変更〕：〔オン〕にすると、本機の言語設定に合わせて、自動的に接続機器の言語設定を切り替えます。 〔HDMI2 ARC〕：〔オン〕にすると、HDMI2 (ARC)端子に接続した機器のHDMI ARC機能を有効にします。

設定	選択肢	説明
電源ボタン設定	サスペンド シャットダウン	電源ボタンを押したときの本機の動作を設定します。 [サスペンド]: スタンバイ状態からの起動が早くなります。 [シャットダウン]: スタンバイ状態での電力消費を最小限に抑えます。[サスペンド] よりも、本機の起動に時間がかかります。

▶▶ 関連項目

- 「HDMI CEC機能」 [p.71](#)

使用許諾契約やプライバシーステートメントに関する情報を確認できます。利用状況調査に協力するかどうかを設定することもできます。



項目	説明
使用許諾契約	使用許諾契約を表示します。
プライバシーステートメント	プライバシーステートメントを表示します。
利用状況調査	エプソンがプロジェクターの操作ログを取得できるようにするかどうかを設定します。

Bluetoothで接続した機器から、本機のスピーカーに音声を出力できます。

選択肢	説明
オン オフ	本機をBluetoothスピーカーとして使用するときは、[オン] に設定します。

▶▶ 関連項目

- 「プロジェクターをBluetoothスピーカーとして使用する」 [p.68](#)

プロジェクターをメンテナンスする

プロジェクターのメンテナンス方法について説明します。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターのメンテナンス」 [p.89](#)
- 「投写窓を清掃する」 [p.90](#)
- 「センサーを清掃する」 [p.91](#)
- 「本機を清掃する」 [p.92](#)
- 「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 [p.93](#)

プロジェクターの投写窓、障害物検知センサー、モーションセンサーは定期的に掃除する必要があります。また、エアフィルターや吸排気口も掃除して、本機内部の温度が上昇しないようにしてください。

お客様による交換が必要な部品は、エアフィルターとリモコンの電池のみです。他の部品を交換する必要があるときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

警告

掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてから行ってください。また、取扱説明書で指示している場合を除き、本機のケースを開けないでください。内部には電圧の高い部分が数多くあり、火災・感電・事故の原因となります。

プロジェクターの投写窓は定期的に掃除し、表面に付着したホコリや汚れに気付いたときにも掃除してください。

- 投写窓のホコリや汚れは、清潔で乾いた市販のメガネ拭きなどで軽く拭き取ってください。
- ホコリやゴミが多いときは、ブロアーで取り除いてから投写窓を拭いてください。

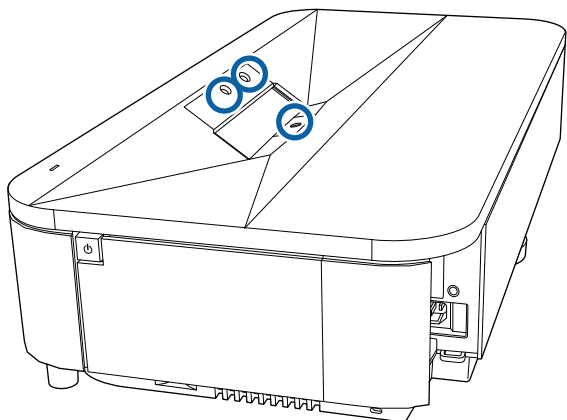
警告

- 投写窓の掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてください。
- レンズに付着したゴミ・ホコリの除去にエアダスターなどの可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機の内部は高温になっているため、引火による火災の原因となります。

注意

- 光源消灯後すぐに投写窓を拭かないでください。投写窓の破損の原因となります。
- 投写窓の表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

障害物がないのに、投写窓付近の障害物を取り除くようメッセージが表示されるときは、障害物検知センサーとモーションセンサーを掃除してください。定期的に掃除することをお勧めします。センサーのホコリや汚れは、市販のメガネ拭きなどで軽くふき取ってください。



警告

センサーに付着したゴミ・ホコリの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機の内部は高温になっているため、引火による火災の原因となります。

注意

センサーは傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。センサーの表面に傷がつくと、誤作動の原因となります。

本機の掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてください。

- 本機のコリや汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布をひたしてかたくしぼり、軽くふき取ってから乾いた布で仕上げてください。本機に液体を直接スプレーしないでください。

注意

ワックス、ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使わないでください。本機のケースが変質、変色することがあります。また、エアダスターも使用しないでください。

エアフィルターは定期的にメンテナンスしてください。プロジェクターの内部温度が高くなっていることを示すメッセージが表示されたら、エアフィルターを掃除してください。エアフィルターの掃除は20,000時間を目安に行ってください。ホコリの多い環境でお使いの場合は、より短い周期で掃除してください。（大気中に含まれる粒子物質が0.04～0.2 mg/m3の環境下での使用を想定しています。）

注意

定期的にメンテナンスをしないと、プロジェクターの内部温度が高くなったときにメッセージが表示されます。内部の温度が上昇すると、故障や光学部品の早期劣化の原因となります。メッセージが表示されたらすみやかにエアフィルターを掃除してください。

▶ 関連項目

- 「エアフィルターを清掃する」 [p.93](#)
- 「エアフィルターを交換する」 [p.94](#)
- 「吸気口を清掃する」 [p.96](#)

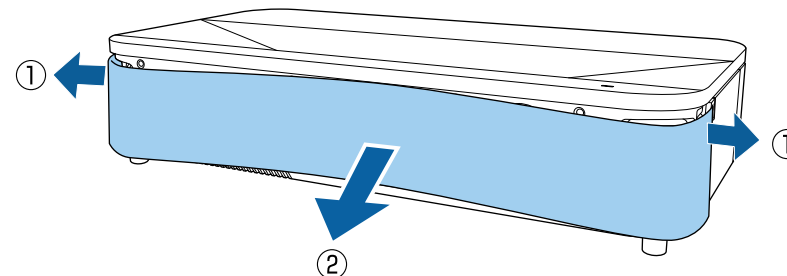
エアフィルターを清掃する

以下の場合は、エアフィルターを清掃してください。

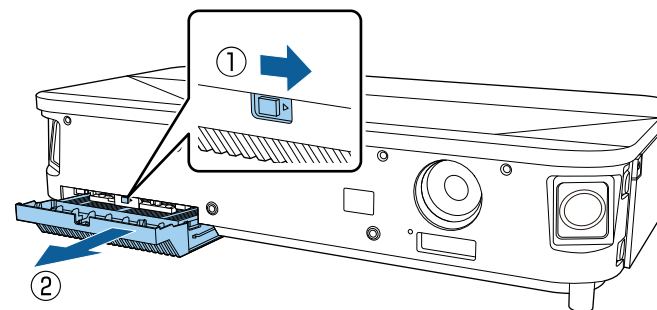
- エアフィルターが汚れたとき
- 清掃を促すメッセージが表示されたとき

1 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。

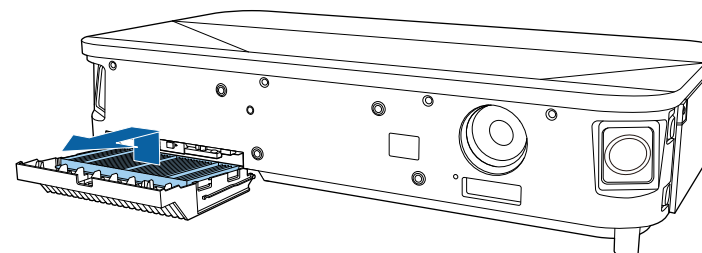
2 フロントカバーを取り外します。



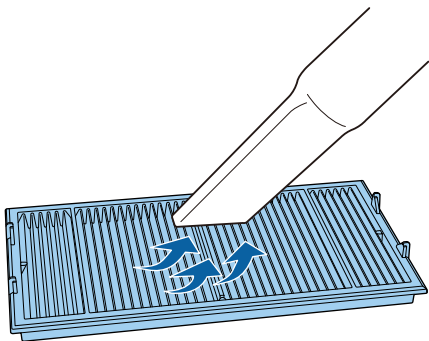
3 エアフィルターカバー操作つまみを横に動かして、エアフィルターカバーを開けます。



4 エアフィルターカバーからエアフィルターを抜き出します。



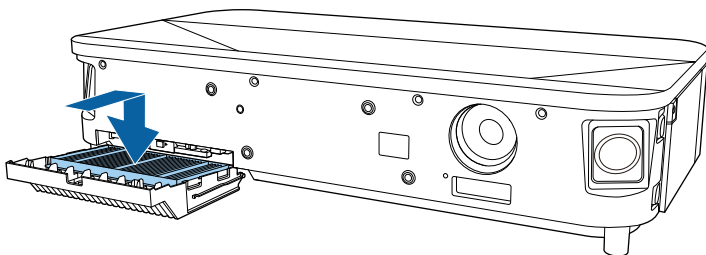
- 5** 掃除機でエアフィルターに残ったホコリを表側（ツメのある面）から吸い取ります。



注意

- エアフィルターは水洗いできません。洗剤や溶剤も使わないでください。
- エアダスターは使用しないでください。可燃性の物質が残留したり、精密部分にホコリが入り込むおそれがあります。

- 6** エアフィルターのツメ（4箇所）を下にしてセットします。

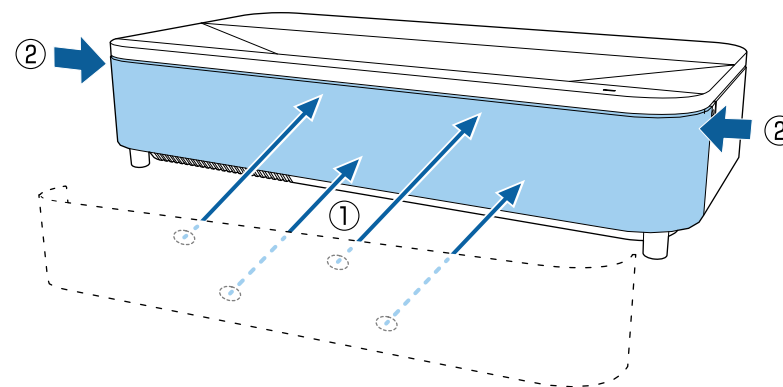


注意

ツメを上に向けてセットした状態で無理にカバーを閉めないでください。プロジェクターの故障の原因となります。

- 7** カチッと音がするまでエアフィルターカバーを差し込みます。

- 8** フロントカバーを取り付けます。



エアフィルターを交換する

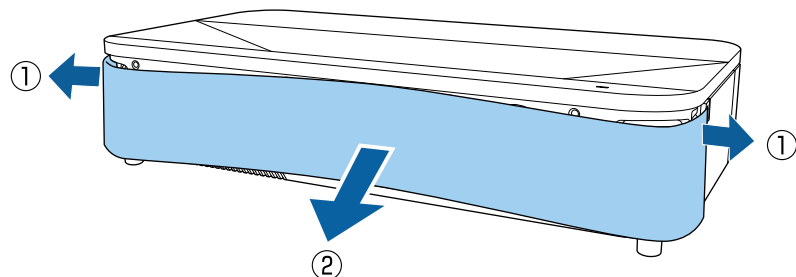
以下の場合、エアフィルターを交換してください。

- エアフィルターの清掃後に、清掃または交換を促すメッセージが表示される
- エアフィルターが破損している

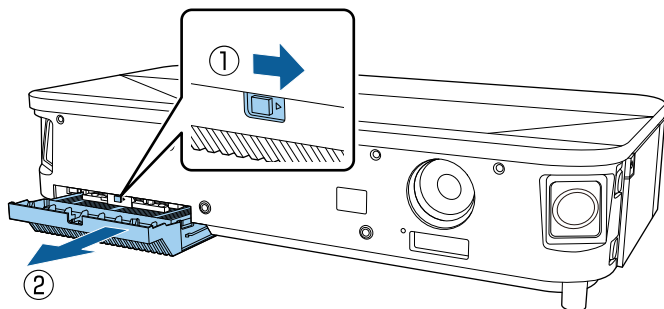
本機は天吊り設置したままでもエアフィルターの交換ができます。

- 1** 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。

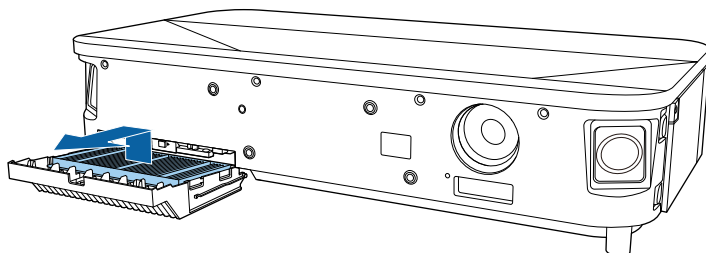
2 フロントカバーを取り外します。



3 エアフィルターカバー操作つまみを横に動かして、エアフィルターカバーを開けます。



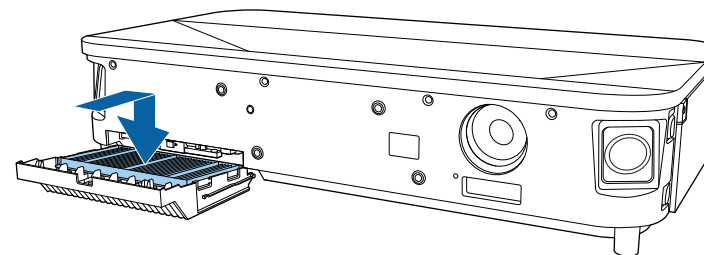
4 エアフィルターを取り外します。



使用済みのエアフィルターは、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

- フィルターの枠：ポリプロピレン
- フィルター：ポリプロピレン、PET

5 新しいエアフィルターを、ツメ（4箇所）を下にしてセットします。

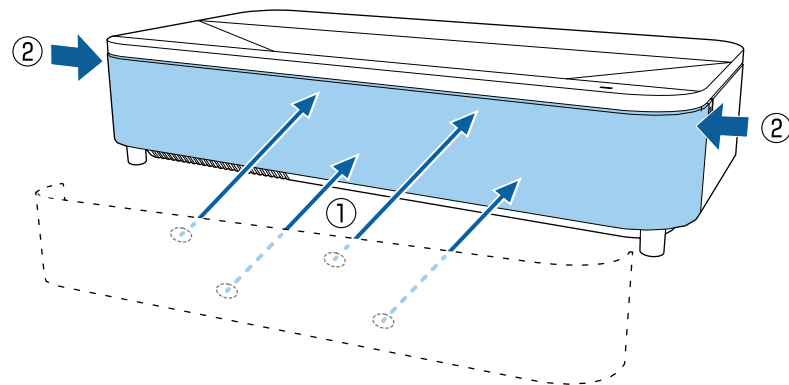


注意

ツメを上に向けてセットした状態で無理にカバーを閉めないでください。プロジェクターの故障の原因となります。

6 カチッと音がするまでエアフィルターカバーを差し込みます。

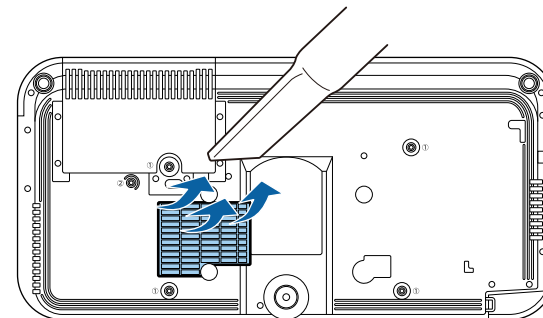
7 フロントカバーを取り付けます。



▶ 関連項目

- 「消耗品」 [p.113](#)

3 掃除機、またはブラシで丁寧にホコリを取ります。



吸気口を清掃する

換気が妨げられて本機の内部温度が上昇しないように、本機の吸気口は定期的に掃除してください。また、吸気口の表面に付着したホコリに気付いたときにも掃除してください。

1 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。

2 底面を上にします。

困ったときに

想定されるトラブルと、その対処方法について説明します。

▶ 関連項目

- 「トラブルの対処方法」 [p.98](#)
- 「インジケータの見方」 [p.99](#)
- 「電源に関するトラブル」 [p.101](#)
- 「映像に関するトラブル」 [p.102](#)
- 「音声に関するトラブル」 [p.106](#)
- 「リモコン操作に関するトラブル」 [p.108](#)
- 「HDMI CECに関するトラブル」 [p.109](#)
- 「Wi-Fiネットワークに関するトラブル」 [p.110](#)
- 「Android TVに関するトラブル」 [p.111](#)

プロジェクターが正しく動作しないときは、一度電源を切り、電源コードを差し直してから再度電源を入れます。

問題が解決しないときは、以下を確認します。

- インジケーターで本機の状態を確認する。
- 本書のトラブル一覧で対処方法を確認する。

問題が解決しないときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

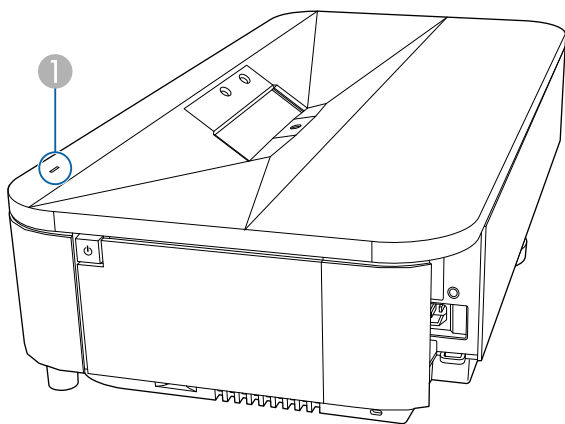


本機を修理に出された場合、初期化してお返すことがあります。各種オンラインサービスのアカウント情報を必ずお控えの上、修理をご依頼ください。

インジケータは、本機の状態をお知らせします。インジケータの色と状態を確認し、以下の表から対処方法を確認してください。



各インジケータがこの表にない状態のときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。



① ステータスインジケータ

プロジェクターの状態

インジケータの状態	状態と対処方法
青点灯	投写中の状態です。
青点滅	ウォームアップ中、またはシャットダウン中です。 青点滅中は、リモコン操作ができないことがあります。
消灯	スタンバイ状態です。 電源ボタンを押すと、投写を開始します。

インジケータの状態	状態と対処方法
橙点灯	内部高温異常（オーバーヒート）状態です。自動的に消灯し、投写できなくなります。電源を切った状態で5分間待ち、温度を下げます。 - エアフィルターや排気口がふさがれていないか、周辺のものや壁で通気が妨げられていないか確認します。 - 高温にならない環境で使用するようにします。 - エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換します。 - 標高1,500m以上の場所でお使いのときは、[高地モード] を [オン] に設定します。 ☛ [設定] > [高地モード] - 問題が解決しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。 障害物検知警告です。 警告音が鳴り、「安全のため映像を停止しています。レンズ付近から離れる、または障害物を取り除いてください。」と表示されます。 光源の明るさが落ちます。 - 投写窓付近に障害物がないか確認します。障害物があるときは取り除きます。 - 障害物がないときは、障害物検知センサーを掃除します。 そのままにしておくと、自動的に電源がオフになります。

インジケータの状態	状態と対処方法
	モーションセンサー警告です。 警告音が鳴り、「安全のため映像を停止しています。レンズ付近から離れる、または障害物を取り除いてください。」と表示されます。 光源の明るさが落ちます。 - 投写窓付近に人がいないか確認します。投写窓から離れます。 - 投写窓付近に誰もいないときは、モーションセンサーを掃除します。
	レーザー警告です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
橙点滅	レーザー異常です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
	ファン異常またはセンサー異常状態です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
	障害物検知エラーです。 投写窓付近に障害物がないときは、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
	内部異常状態です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

▶ 関連項目

- 「エアフィルターを清掃する」 [p.93](#)
- 「エアフィルターを交換する」 [p.94](#)
- 「吸気口を清掃する」 [p.96](#)
- 「設定メニュー」 [p.84](#)

電源に関するトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- 「電源が入らない」 [p.101](#)
- 「予期せず電源が切れる」 [p.101](#)

電源が入らない

電源ボタンを押しても本機の電源が入らないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 電源コードが本機とコンセントに確実に接続されていることを確認します。
- 2** リモコンの電池を確認します。
- 3** 電源コードが故障している可能性があります。電源コードを抜いて、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターの電源を入れる」 [p.36](#)
- 「リモコンに電池を取り付ける」 [p.31](#)

予期せず電源が切れる

本機の電源が予期せず切れるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** [設定] メニューの [スリープタイマー] で設定した時間が経過したため、本機がスタンバイ状態になっている可能性があります。プロジェクターまたはリモコンの電源ボタンを押して電源を入れます。



スタンバイ状態から復帰すると、[スリープタイマー] の設定は自動的に [オフ] に戻ります。

- 2** ステータスインジケーターが橙色に点灯しているときは、本機の内部高温異常（オーバーヒート）で電源がオフになっています。



プロジェクターの設定によって、スタンバイ状態でもファンが回転することがあります。また、スタンバイ状態から電源をオンにしたときに、ファンが大きな音を立てて回転することがありますが、異常ではありません。

- 3** 次の点を確認します。
 - 投写窓付近に障害物がないか確認します。障害物があるときは取り除きます。
 - 障害物がないときは、障害物検知センサーを掃除します。

▶ 関連項目

- 「設定メニュー」 [p.84](#)

投写映像に関するトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- 「映像が表示されない」 [p.102](#)
- 「映像が湾曲している、長方形にならない」 [p.103](#)
- 「映像が左右反転している」 [p.103](#)
- 「映像が小さい」 [p.103](#)
- 「映像がぼやける」 [p.103](#)
- 「映像の一部が表示されない」 [p.104](#)
- 「映像にノイズが入る、乱れる」 [p.104](#)
- 「映像の明るさや色合いが違う」 [p.105](#)

映像が表示されない

映像が表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

1 本機の状態を確認します。

- リモコンの  ボタンを押して、映像が一時的に消されていないか確認します。
- インジケーターの色と状態を確認します。
- スタンバイ状態から復帰するには、本機の電源ボタンを押します。
☛ [設定] > [スリープタイマー]

2 ケーブルの接続を確認します。

- 必要なケーブルがすべて接続されていること、本機の電源が入っていることを確認します。
- 本機とビデオ機器を直接接続してください。
- HDMIケーブルが長いときは、短いケーブルで接続します。

- 4K 60Hz 4:4:4などの18 Gbps伝送帯域の信号を投写するときは、プレミアムハイスピードのHDMIケーブルをお使いください。

3 ビデオ機器、映像信号、およびHDMIケーブルが対応している規格に応じて、[画質] メニューの[EDID] の設定を変更します。

4 ビデオ機器の状態を確認します。

- メディアストリーミング端末から投写するときは、USB給電ケーブルが正しく接続されていることを確認します。
- メディアストリーミング端末やビデオ機器の電源が入っていることを確認し、再生ボタンを押してコンテンツを再生してみます。
- 接続機器がHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- ノート型コンピューターから投写するときは、コンピューターの画面出力を切り替えて、プロジェクターに映像を表示します。

5 次の点を確認します。

- オンラインコンテンツを視聴する際は、インターネットへの接続が必要です。Wi-Fiサービスを利用できるか確認してください。
- 本機、および接続されたメディアストリーミング端末やビデオ機器の電源を一度切ってから、再度電源を入れます。
- 本機、および接続されたビデオ機器の電源を一度切ってから、再度電源を入れます。
- ビデオ機器のCEC電源連動機能を有効にして、電源を入れ直します。
- コンピューターのディスプレイ解像度が本機の対応解像度、周波数と合っているか確認します。必要に応じて、コンピューターのディスプレイ解像度を変更します。（詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。）

- 本機のすべての設定を初期化します。

▶ 関連項目

- 「設定メニュー」 [p.84](#)

映像が湾曲している、長方形にならない

投写画面がゆがむときは、次の対処方法を確認してください。

- 1 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。
- 2 [設置] メニューから投写映像のゆがみを補正します。

▶ 関連項目

- 「映像のゆがみを補正する」 [p.43](#)

映像が左右反転している

投写映像が左右反転しているときは、次の対処方法を確認してください。

- 1 [左右反転] 機能で投写映像を反転させている場合は、リモコンの  ボタンを押して [フレキシブルスクリーン] メニューを表示し、再度  ボタンを押して機能を解除します。

▶ 関連項目

- 「映像を左右反転する（フレキシブルスクリーン）」 [p.66](#)

映像が小さい

投写映像が小さいときは、次の対処方法を確認してください。

- 1 投写映像の大きさを調整してあるときは、リモコンの  ボタンを押して [フレキシブルスクリーン] メニューを表示し、投写映像が正しいサイズになるまで  ボタンを押します。

▶ 関連項目

- 「映像のサイズと位置を調整する（フレキシブルスクリーン）」 [p.65](#)

映像がぼやける

投写映像がぼやけるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1 フォーカスレバーで映像のピントを合わせます。
- 2 投写距離の推奨範囲内に設置します。
- 3 本機の投写窓を掃除します。



寒い場所から暖かい場所に持ち込んだときは、レンズの表面が結露して映像がぼやけることがあります。お使いになる1時間くらい前に、通電しない状態で本機を設置するようにします。

- 4 [画質] メニューで [シャープネス] を調整して、投写映像の画質を上げます。
 [画質] > [カスタム設定] > [シャープネス]
- 5 [ボーダレス] 機能で投写映像のふちをぼかしているときは、リモコンの  ボタンを押して [フレキシブルスクリーン] メニューを表示し、 ボタンを押して機能を解除します。

- 6** コンピューターから映像を投写しているときは、解像度を下げるか、本機の解像度に合わせて解像度を変更します。

▶ 関連項目

- ・「ピントを調整する」 [p.41](#)
- ・「画質メニュー」 [p.78](#)
- ・「投写窓を清掃する」 [p.90](#)
- ・「映像のふちをぼかす（フレキシブルスクリーン）」 [p.67](#)

映像の一部が表示されない

コンピューターの映像が部分的にしか表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 投写映像の大きさを調整してあるときは、リモコンの  ボタンを押して「フレキシブルスクリーン」メニューを表示し、投写映像が正しいサイズになるまで  ボタンを押します。
- 2** 「画質」メニューで「アスペクト比」が「ズーム」に設定されているときは、「ノーマル」に変更します。
- 3** 正しい設置モードを選択していることを確認します。「設定」メニューの「設置モード」で選択できます。
- 4** コンピューターのディスプレイ設定でデュアルディスプレイが無効になっているか、本機の対応解像度に合った設定がされているか確認します。（詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。）

▶ 関連項目

- ・「設定メニュー」 [p.84](#)
- ・「映像のサイズと位置を調整する（フレキシブルスクリーン）」 [p.65](#)

映像にノイズが入る、乱れる

投写映像に電子的な干渉（ノイズ）や妨害が入るときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 本機とビデオ機器を接続しているケーブルの状態を確認します。ケーブルが以下の状態であることを確認してください。
- ・干渉を受けないように、電源コードから離れている
 - ・ケーブルの両端が確実に接続されている
 - ・延長ケーブルを使用していない
- 2** 「画質」メニューの「ノイズリダクション」を調整します。
- 3** 映像のゆがみを補正したときは、「画質」メニューで「シャープネス」を低い値に設定して、投写映像の画質を向上させます。
 「画質」 > 「カスタム設定」 > 「シャープネス」
- 4** ビデオ機器、映像信号、およびHDMIケーブルが対応している規格に応じて、「画質」メニューの「EDID」の設定を変更します。
- 5** 延長ケーブルを使用して電源に接続しているときは、延長ケーブルを使わずに投写して、映像にノイズが入らないか確認します。
- 6** コンピューターのディスプレイ解像度やリフレッシュレートが本機の対応解像度、リフレッシュレートと合っているか確認します。

▶ 関連項目

- ・「画質メニュー」 [p.78](#)

映像の明るさや色合いが違う

投写映像が暗すぎたり明るすぎるとき、また色合いが正しく表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** [画質] メニューの [カラーモード] で、映像と投写環境に合うカラーモードを選択します。
- 2** [画質] メニューの [適応レーザーライト出力] で別の設定に変えてみます。
- 3** お使いのビデオ機器の設定を確認します。
- 4** [画質] メニューで、以下の設定項目を入力ソースに合わせて調整します。
 - [シーン適応ガンマ補正]
 - [カスタム設定]
 - [色温度]
 - [フレーム補間]
 - [ダイナミックコントラスト]
 - [ノイズリダクション]
 - [超解像]
 - [自動コントラスト強調]
 - [アスペクト比]
- 5** [画質] メニューで [HDMIビデオレンジ]、[HDR]、[EDID] を正しく設定します。
- 6** 壁に投写しているときは、[設置] メニューの [色調整] で、映像や環境に合わせて別のタイプの壁の色を試してみます。

- 7** 必要なケーブルが本機とビデオ機器に確実に接続されていることを確認します。ケーブルが長いときは、短いケーブルで接続します。

- 8** 投写距離の推奨範囲内に設置します。

▶ 関連項目

- 「画質メニュー」 [p.78](#)

音声に関するトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- 「音が出ない、小さい」 [p.106](#)
- 「Bluetoothスピーカーモードでのトラブル」 [p.106](#)

音が出ない、小さい

音が出ない、小さすぎるなどの問題があるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** リモコンの  ボタンまたは  ボタンを押して音量を調整します。
- 2** 本機とビデオ機器のケーブルが正しく接続されているか確認します。
- 3** 一時的に音声を消しているときは、リモコンの  ボタンを押してミュートを解除します。
- 4** ビデオ機器の以下の設定を確認します。
 - ビデオ機器の音量が大きくなっているか、音声出力が正しく設定されているか確認します。
 - 接続機器の音声出力をPCMに設定します。
- 5** 本機のスピーカーから音声を出力したい場合は、[サウンド] メニューの [音声出力] 設定が正しいか確認します。
- 6** HDMIケーブルで外部のオーディオ機器に接続して音声を出力するときは、以下の設定を確認します。
 - HDMIケーブルを本機の HDMI2 (ARC)端子に接続します。

- 本機のスピーカーまたは Optical Out端子から音声出力されていることを確認します。
- [設定] メニューで、[HDMI CEC] を [オン] に設定します。
 - ☛ [設定] > [HDMI CEC] > [CECコントロール]
- [設定] メニューで、[HDMI2 ARC] を [オン] に設定します。
 - ☛ [設定] > [HDMI CEC] > [CECコントロール]
- [サウンド] メニューで [HDMI3 (Game)以外] を [ARC/Optical (PCM)] に設定します。
- イーサネット対応のHDMIケーブルを使用します。



HDMI ARC非対応の外部オーディオ機器に音声を出力するときは、[設定] メニューで [HDMI CEC] を [オフ] に設定してください。

- 7** 光デジタルケーブルで外部のオーディオ機器に接続して音声を出力するときは、[サウンド] メニューの [音声出力] 設定が正しいか確認します。

▶ 関連項目

- 「サウンドメニュー」 [p.80](#)

Bluetoothスピーカーモードでのトラブル

Bluetoothオーディオ機器を本機に接続できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** [Bluetoothスピーカーモード] を [オン] にします。
- 2** Bluetooth機器に表示される接続可能機器の一覧から [Projector] を選択します。

- 3** 他のBluetooth機器が接続されていないことを確認します。
複数のBluetooth機器を同時に接続することはできません。
- 4** Bluetooth機器が本機のBluetooth仕様に適合しているか確認します。
- 5** 次の点を確認します。
 - Bluetoothオーディオ機器と本機の間には障害物がないかを確認し、電波状況がよくなるようにそれらの位置を変更します。
 - Bluetoothオーディオ機器が離れすぎているか確認します。
 - 電子レンジ、2.4 GHz帯の周波数を使用するコードレス電話や無線機器などの近くで本機を使用しないでください。電波干渉が発生することがあります。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターをBluetoothスピーカーとして使用する」 [p.68](#)
- 「Bluetooth仕様」 [p.69](#)

本機がリモコン操作に反応しないときは、次の対処方法を確認してください。



リモコンを紛失したときは、新たにリモコンをお買い求めいただけます。

1 リモコンの電池が正しくセットされていること、電池が切れていないことを確認します。必要に応じて、電池を交換します。

2 入力ソースがHDMI3 (Game)になっていないか確認します。



入力ソースがHDMI3 (Game)の場合、使用できないリモコンボタンがあります。

3 リモコンのボタンが押し込まれた状態になっていないか確認します。その状態ではリモコンが操作できないことがあります。ボタンを元の状態に戻してください。

4 リモコン信号が届く距離、角度からリモコンを操作します。

5 インジケーターの色と状態を確認します。

6 蛍光灯の強い光、直射日光、赤外線機器の信号が、本機のリモコン受光部に干渉することがあります。照明の明るさを落とす、または直射日光や赤外線干渉を避けられる場所に本機を移動してください。

7 ペアリング画面が表示される場合は、リモコンの【決定】ボタンと



ボタンを同時に約3秒間押して、再ペアリングしてください。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターの各部名称 - プロジェクターリモコン」 [p.13](#)
- 「リモコンを操作する」 [p.32](#)
- 「リモコンに電池を取り付ける」 [p.31](#)
- 「インジケーターの見方」 [p.99](#)

HDMI CECで接続機器を操作できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** お使いのケーブルがHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。
- 2** 接続機器がHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- 3** [設定] メニューで、[HDMI CEC] を [オン] に設定します。
☞ [設定] > [HDMI CEC] > [CECコントロール]
- 4** 必要なケーブルが本機とビデオ機器に確実に接続されていることを確認します。



HDMIケーブルは本機のHDMI2 (ARC)端子に接続してください。

- 5** 接続機器の電源がスタンバイ状態になっているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- 6** 新しく機器を接続したり、接続を変更した後に操作できないときは、接続機器のCEC機能を設定し直して、再起動します。

▶ 関連項目

- 「設定メニュー」 [p.84](#)
- 「HDMI CEC機能を使って接続機器を操作する」 [p.71](#)

Wi-Fiネットワークに接続できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** お使いのWi-Fiルーターやモデムが正しく動作していることを確認します。再起動すると問題が解決することがあります。
- 2** Wi-Fiルーターと本機の間には障害物がないかを確認し、電波状況がよくなるようにそれらの位置を変更します。
- 3** リモコンのボタンを押して表示されるメニューで、ネットワークの設定を確認します。
- 4** 本機を初期化したときは、初期設定でネットワークを設定しなおす必要があります。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターを初期化する」 [p.75](#)

Android TVに関しては以下のページをご覧ください。

<https://support.google.com/androidtv/>

付録

お使いの製品の仕様や使用上の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

▶ 関連項目

- 「オプション・消耗品一覧」 [p.113](#)
- 「スクリーンサイズと投写距離」 [p.114](#)
- 「対応解像度」 [p.116](#)
- 「本機仕様」 [p.117](#)
- 「外形寸法図」 [p.118](#)
- 「安全規格対応シンボルマークと説明」 [p.119](#)
- 「レーザー製品を安全にお使いいただくために」 [p.121](#)
- 「用語解説」 [p.123](#)
- 「一般のご注意」 [p.124](#)

下記のオプション・消耗品を用意しています。用途に合わせてお買い求めください。

これらのオプション品は2025年4月現在のものです。

予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

▶ 関連項目

- ・「設置用金具」 [p.113](#)
- ・「外付けオプション」 [p.113](#)
- ・「スクリーン」 [p.113](#)
- ・「消耗品」 [p.113](#)

設置用金具

天吊金具 **ELPMB22**

薄型天吊金具 **ELPMB30**

天井に取り付けるときに使用します。

セーフティーワイヤーセット **ELPWR01**

落下防止のため、本機と天吊り金具をつなぐときに使用します。

パイプ450 (450mm) **ELPFP13**

パイプ700 (700mm) **ELPFP14**

高天井および化粧天井に取り付けるときに使用します。



天吊り設置には特別な技術が必要です。詳細はお買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

外付けオプション

メディアストリーミング端末 **ELPAP12**

メディアストリーミング端末です。オンラインコンテンツを視聴するときに使います。

スクリーン

100型超短焦点スクリーン **ELPSC35**

壁などに取り付けるスクリーンです。(アスペクト比 16:9)

消耗品

エアフィルター **ELPAF64**

使用済みエアフィルターと交換します。

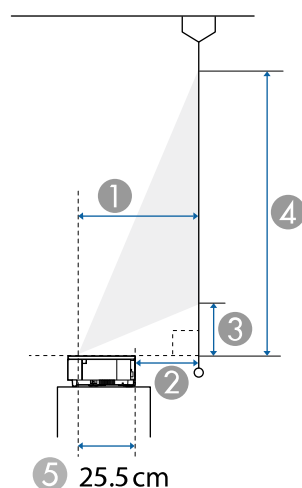
▶ 関連項目

- ・「エアフィルターを交換する」 [p.94](#)

この表に従って、スクリーンからプロジェクターまでの距離を、投写映像の大きさに応じて決めます。



「フレキシブルスクリーン」メニューを使うと、本機を動かすことなく投写映像のサイズを小さくしたり、映像の位置を変更したりすることができます。



- ① 投写距離 (cm)
- ② 本機背面からスクリーンまでの長さ (cm)
- ③ 本機からスクリーン下端までの長さ (cm)
- ④ 本機からスクリーン上端までの長さ (cm)
- ⑤ レンズ中心から本機の背面までの長さ (cm)

16:9スクリーンサイズ		①	②	③	④
		ワイド			
80型	177 × 100	27.8	2.3	10.8	110.4
90型	199 × 112	31.6	6	12.9	124.9

16:9スクリーンサイズ		①	②	③	④
		ワイド			
100型	221 × 125	35.3	9.8	14.9	139.4
110型	244 × 137	39	13.5	16.9	153.9
120型	266 × 149	42.8	17.3	19	168.4
130型	288 × 161	46.5	21	21	182.9
150型	332 × 187	54	28.5	25.1	211.9

4:3スクリーンサイズ		①	②	③	④
		ワイド			
66型	134 × 101	28.1	2.6	11	111.6
70型	142 × 107	29.9	4.4	12	118.7
80型	163 × 122	34.5	9	14.5	136.4
90型	183 × 137	39.1	13.6	17	154.1
100型	203 × 152	43.7	18.1	19.5	171.9
110型	226 × 168	48.3	22.7	22	189.6
120型	244 × 183	52.8	27.3	24.5	207.3
122型	248 × 186	53.8	28.2	25	210.9

16:10スクリーンサイズ		①	②	③	④
		ワイド			
74型	159 × 100	27.8	2.3	10.8	110.4
80型	172 × 108	30.2	4.7	12.1	119.8
90型	194 × 121	34.3	8.8	14.3	135.5
100型	215 × 135	38.3	12.8	16.5	151.2
110型	237 × 148	42.4	16.9	18.8	166.8

16:10スクリーンサイズ		①	②	③	④
		ワイド			
120型	259 × 162	46.4	20.9	21	182.5
130型	280 × 175	50.5	24.9	23.2	198.2
138型	297 × 186	53.7	28.2	24.9	210.7

▶ 関連項目

- 「映像のサイズと位置を調整する（フレキシブルスクリーン）」 [p.65](#)

映像信号ごとのリフレッシュレートと解像度についての詳細は『Supplemental A/V Support Specification』をご覧ください。

商品名	EH-LS800W/EH-LS800B
外形サイズ	幅695×高さ145×奥行き341 mm（突起部を含まず）
液晶パネルサイズ	0.62型
表示方式	ポリシリコンTFTアクティブマトリクス
解像度	2,073,600ピクセル* Full HD（横1,920×縦1,080ドット）×3
フォーカス調整	手動
光源	レーザーダイオード
光源出力	最大88 W
波長	449 - 461nm
光源寿命**	最大約20,000時間
音声最大出力	20 W
スピーカー	2.1ch（スピーカー2個、ウーファー1個）
電源	100-240V AC±10% 50/60Hz 3.5 - 1.6 A
消費電力（100-120Vエリア）	動作時（明るさが100%のとき）：350 W 動作時（明るさが50%のとき）：217 W
消費電力（220-240Vエリア）	動作時（明るさが100%のとき）：335 W 動作時（明るさが50%のとき）：210 W
待機時消費電力	通信オン：2.0 W 通信オフ：0.4 W
動作高度	標高 0～3,048 m
動作温度範囲	標高0～2,286 m：0～+40℃（湿度20～80%、結露しないこと） 標高2,287～3,048 m：0～+35℃（湿度20～80%、結露しないこと）
保存温度範囲	-10～+60℃（湿度10～90%、結露しないこと）

質量	約12.3 kg
----	----------

* ピクセルシフト技術により、4K相当の解像度を実現しています。

**光源の明るさが半減するまでの目安時間です。（大気中に含まれる粒子物質が0.04～0.2mg/m3の環境下での使用を想定しています。使用条件や使用環境によって目安時間は変動します。）

傾斜角度

垂直、水平方向ともに設置角度に制限はありません。

▶ 関連項目

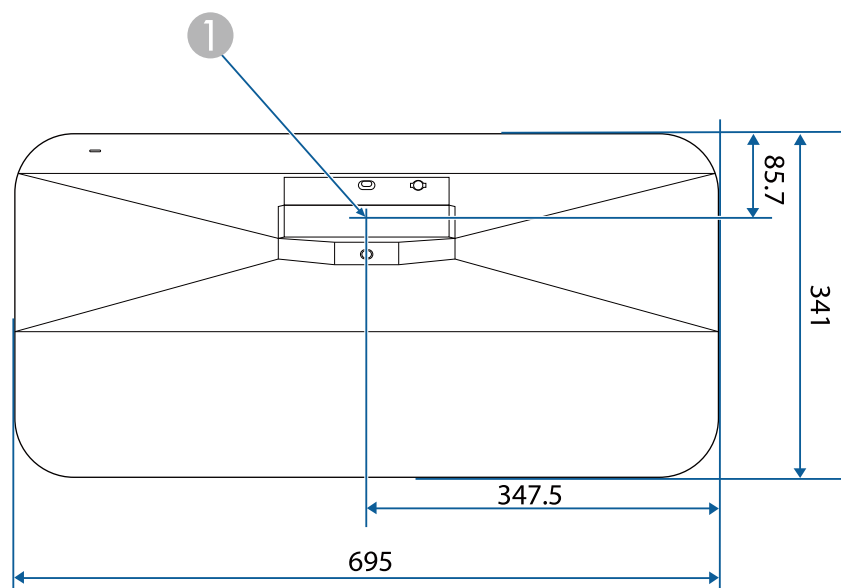
- 「接続端子」 [p.117](#)

接続端子

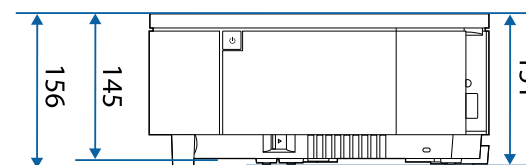
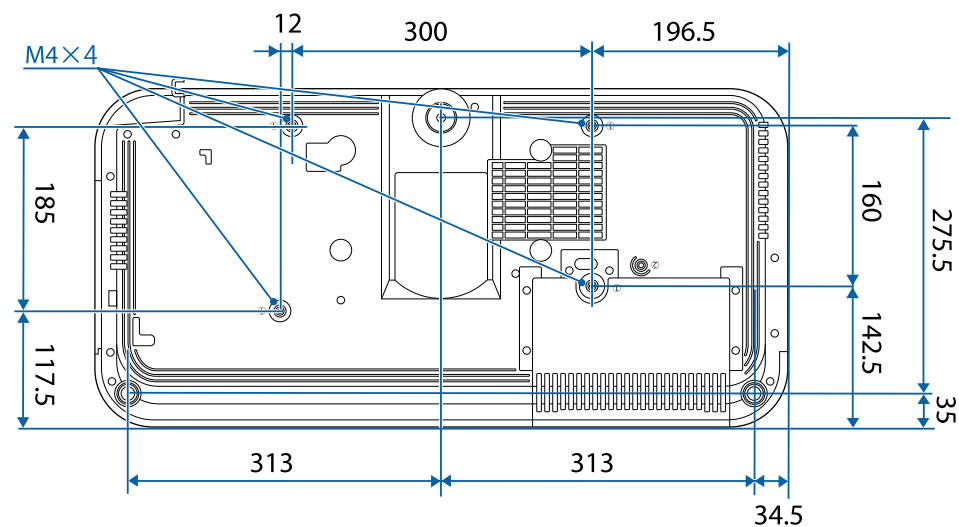
HDMI1端子	1系統	HDMI
HDMI2 (ARC)端子	1系統	HDMI
HDMI3 (Game)端子	1系統	HDMI
USB-A端子	2系統	USBコネクタ（Aタイプ）
Service端子	1系統	USBコネクタ（Mini-B）
Audio Out端子	1系統	ステレオミニピンジャック（3.5Φ）
Optical Out端子	1系統	光デジタル音声コネクタ（S/PDIF）
DC Out (2.0A)端子	1系統	USBコネクタ（Aタイプ）



USB-A端子はUSB2.0に対応しています。ただし、USB対応機器すべての動作を保証するものではありません。



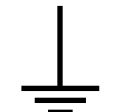
① 投写レンズの中心



単位：mm

製品上にシンボルマークが表示されている場合は、それぞれ以下の意味を持っています。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
①		IEC60417 No. 5007	電源ON 電源への接続を示す。
②		IEC60417 No. 5008	電源OFF 電源からの切り離しを示す。
③		IEC60417 No. 5009	スタンバイ 機器・装置の一部だけを通電状態にし、機器・装置を待機状態にするためのスイッチまたはその位置を示す。
④		ISO7000 No. 0434B, IEC3864-B3.1	注意 製品取扱時の全般的な注意を示す。
⑤		IEC60417 No. 5041	注意（高温） 高温の可能性があり、不注意に触れない方がよい箇所であることを示す。
⑥		IEC60417 No. 6042 ISO3864-B3.6	注意（感電危険） 感電（電撃）の危険性がある機器・装置であることを示す。
⑦		IEC60417 No. 5957	屋内専用 屋内使用専用を目的とする電気機器・装置であることを表す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
⑧		IEC60417 No. 5926	直流電源コネクタ極性 直流電源を接続してもよい機器のプラスおよびマイナス電極の接続を示す。
⑨		—	No. 8と同じ
⑩		IEC60417 No. 5001B	電池（一般） 電池を電源とする機器・装置に使用する。電池装着部分のカバーまたは接続端子を示す。
⑪		IEC60417 No. 5002	電池の向き 電池ケース本体および電池ケース内での向きを示す。
⑫		—	No. 11と同じ
⑬		IEC60417 No. 5019	保護接地 障害発生時の電撃（感電）保護用外部導体への接続端子または保護接地極の端子であることを示す。
⑭		IEC60417 No. 5017	アース No. 13の使用が明示的に要請されない場合の接地（アース）端子であることを示す。
⑮		IEC60417 No. 5032	交流 交流専用の機器・装置であり、交流に対応する端子であることを示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
16		IEC60417 No. 5031	直流 直流専用の機器・装置であり、直流に対応する端子であることを示す。
17		IEC60417 No. 5172	クラスⅡ機器 JIS C 9335-1/JIS C 8105-1でクラスⅡ機器と規定した安全性要求事項に適合する機器・装置であることを示す。
18		ISO 3864	一般的な禁止 特定しない一般的な禁止通告を示す。
19		ISO 3864	接触禁止 機器の特定の場所に触れることによって傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。
20		—	プロジェクター動作中の投写レンズ覗きこみ禁止を示す。
21		—	プロジェクターの上に物を置いたはならないことを示す。
22		ISO3864 IEC60825-1	注意（レーザー放射） 製品上に注意が必要なレベルのレーザー放射部があることを示す。
23		ISO 3864	分解禁止 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
24		IEC60417 No. 5266	待機、一部待機 機器・装置の一部が準備状態であることを示す。
25		ISO3864 IEC60417 No. 5057	注意（可動部品） 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。
26		IEC60417 No. 6056	注意（可動ファンのブレード） 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。
27		IEC60417 No. 6043	注意（鋭利な角） 保護規定上、鋭利な角には触れてはいけないことを指示する。
28		—	プロジェクター動作中の投写レンズ覗きこみ禁止。
29		ISO7010 No. W027 ISO 3864	警告、光放射（UV、可視光、IRなど） 光放射の近くにいるときは、目や肌に負傷を与えないように注意してください。
30		IEC60417 No. 5109	居住区域使用禁止 居住区域での使用に適さない電気機器・装置であることを示す。

本機はJIS C 6802:2014に適合したクラス1レーザー製品です。

以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

⚠ 警告

- 本機のケースを開けないでください。内部に高出力レーザー製品が組み込まれています。
- 本機の光源を直接見ないでください。強い光が視力障害などの原因となります。

⚠ 注意

本機を廃棄する場合は分解しないでください。国や地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。



本機的光源はレーザーを使用しています。レーザーには以下のような特性があります。

- 使用環境によって、光源の輝度が低下します。温度が高くなるほど、輝度の低下が大きくなります。
- 使用時間の経過にともない、光源の輝度が低下します。使用時間と輝度低下の関係は明るさ設定で変更できます。

▶ 関連項目

- 「レーザー警告ラベル」 [p.121](#)

レーザー警告ラベル

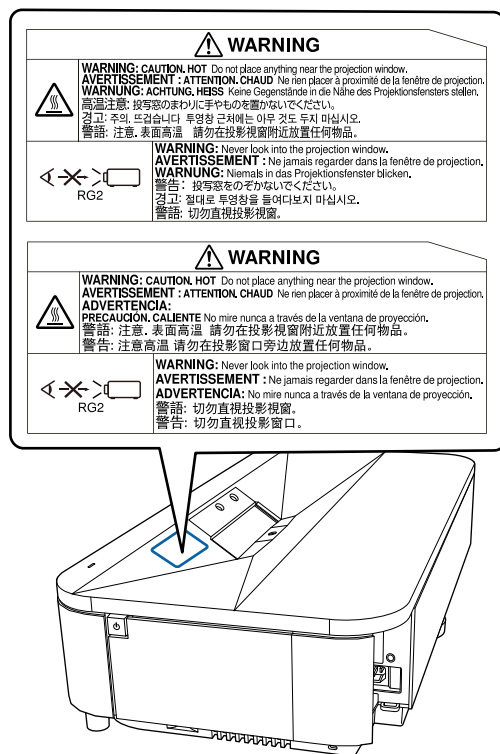
本機には以下のレーザー警告ラベルが貼られています。

内部



上面

投写中は、光源から放射されるレーザービームをのぞかないでください。
(RG2 IEC/EN 62471-5:2015に準拠)



警告

- 投写中は本機のレンズをのぞき込まないでください。目に損傷を与えるおそれがあります。特にお子様やペットの行動にご注意ください。
- 本機から離れた場所でリモコンを使って電源を入れるときは、レンズをのぞいている人がいないことを確認してください。
- 小さなお子様には操作させないでください。操作する可能性がある場合は、必ず保護者が同伴してください。
- 投写中はレンズをのぞきこまないでください。また、ルーペや望遠鏡などの光学機器を用いてレンズをのぞかないでください。視覚障害の原因になることがあります。

本書で使用している用語で、本文中に説明がないものや難しいものを簡単に説明します。詳細は市販の書籍などでご確認ください。

アスペクト比	画面の横と縦の比率をいいます。 横：縦の比率が16:9の、HDTVなどの画面をワイド画面といいます。 SDTVや、一般的なコンピュータのディスプレイのアスペクト比は4:3です。
コントラスト	色の明暗の差を強くしたり弱くしたりすることにより、文字や絵がはっきり見えたり、ソフトに見えたりすることです。この調整をコントラストの調整といいます。
Full HD	画面サイズの規格で、横1,920ドット×縦1,080ドットのものを呼びます。
HDCP	High-bandwidth Digital Content Protectionの略です。 DVIやHDMI端子を経由して送受信するデジタル信号を暗号化し、不正なコピーを防止する著作権保護技術です。 本機のHDMI端子はHDCPに対応しているため、HDCP技術で保護されたデジタル映像を投写できます。 ただし、HDCPの規格変更等が行われたときは、変更後の規格で保護されたデジタル映像を投写できなくなる場合があります。
HDMI™	High Definition Multimedia Interfaceの略で、デジタル家電やコンピュータ向けの規格です。HD映像とマルチチャンネルオーディオ信号をデジタル伝送できます。 デジタル信号を圧縮せず高品質のまま転送できます。デジタル信号の暗号化機能もあります。
HDTV	High-Definition Televisionの略で、次の条件を満たす高精細なシステムに適用されます。 - 垂直解像度720p、1080i以上（pはプログレッシブ走査、iはインターレース走査） - 画面のアスペクト比は16:9

ペアリング	Bluetooth機器で接続するとき、相互に通信できるよう、あらかじめ機器を登録することです。
リフレッシュレート	ディスプレイの発光体は、その明るさと色をごく短時間保持します。 そのため発光体をリフレッシュするために1秒間に何度も画像を走査しなければなりません。 その速度をリフレッシュレートと呼び、ヘルツ（Hz）で表します。
SDTV	Standard Definition Televisionの略で、HDTVの条件を満たさない標準テレビ放送のことです。

本機をお使いの際の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

▶ 関連項目

- 「使用限定について」 [p.124](#)
- 「本機を日本国外へ持ち出す場合の注意」 [p.124](#)
- 「瞬低（瞬時電圧低下）基準について」 [p.124](#)
- 「JIS C 61000-3-2適合品」 [p.124](#)
- 「商標について」 [p.124](#)
- 「ご注意」 [p.125](#)
- 「著作権について」 [p.125](#)

使用限定について

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で当社製品をご使用いただくようお願いいたします。本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、医療機器など、極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途には本製品の適合性をお客様において十分ご確認ください。

本機を日本国外へ持ち出す場合の注意

- 日本国内向けの本製品を海外で利用した場合は、保証の対象外となります。国内で販売する本製品は、日本国内使用を意図した安全規格基準のみ対応しているため、日本国以外でのご使用は違法となる場合があります。また、国や地域によっては電波使用制限があるため、ネットワーク機能を海外で使った場合、罰せられることがあります。

- 電源コードは日本国内向けの電源仕様に基つき同梱されています。本機を日本国以外でお使いになるときは、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源コードを現地にてお求めください。

瞬低（瞬時電圧低下）基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

商標について

「EPSON」はセイコーエプソン株式会社の登録商標です。「EXCEED YOUR VISION」およびそのロゴはセイコーエプソン株式会社の登録商標または商標です。

Mac、OS X、macOSは、Apple Inc.の商標です。

Microsoft、Windows、Windows ロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Google、Google Play、Android TV、Chromecast built-in、およびその他のマークはGoogle LLCの商標です。

Google アシスタントは、国や言語により使用できない場合があります。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基つき製造されています。

Dolby、ドルビー、ドルビーオーディオ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia InterfaceはHDMI Licensing Administrator, Inc.の商標、または登録商標です。 

QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

Wi-Fi®はWi-Fi Alliance®の商標です。

Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、セイコーエプソン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商品名は、それぞれの所有者に帰属します。

Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびにその他の国における商標または登録商標です。

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

(6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品、交換部品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

(7) 本書中のイラストや画面図は実際と異なる場合があります。

著作権について

本書の内容は予告なく変更することがあります。

© 2022 Seiko Epson Corporation

2025.4 414293901JA

ご注意

(1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。

(2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、お気づきの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。

(4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

(5) 本製品がお客様により不適当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者（「お問い合わせ先」参照）以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。